

科目区分	科目名	担当教員			配当年次	単位数		DP1 課題探求	DP2 倫理行動	DP3 看護実践	DP4 相互成長	修了要件
						必修	選択					
専門共通科目	先端医学論※	古山達雄	平川栄一郎	奥田潤	1 前		2	◎			○	16単位以上
		樋本尚志	多田達史	岡田仁								
	チーム医療特論※	多田達史	森田公美子		1 後		2	○			◎	
	保健統計学特論	比江島欣慎			1 通		2	◎		○		
	生命・医療倫理論※	植村裕子	岡田仁	大栗聖由	1 後		2	○	◎			
		中澤留美										
	英論文作成概論	南貴子			1 前		2	◎		○		
	看護理論	近藤真紀子	小野美穂	岩本真紀	1 前	2					○	
		森田公美子	岡西幸恵									
	看護と哲学	近藤真紀子	森田久美子	出村和彦	1 後		2			◎	○	
	質的研究方法論	近藤真紀子	岩本真紀	岡田麻里	1 前	2		◎	○			
		岡西幸恵										
	量的研究方法論	比江島欣慎	片山陽子	竹内千夏	1 通	2		◎	○			
地域包括ケア特論	片山陽子	辻よしみ		1 後		2	◎		○			
看護政策特論	井伊久美子			1 後		2			◎	○		
看護教育学特論	小野美穂			1 後		2			◎	○		
小計(12科目)						6	18					
専門領域科目	基盤看護学領域	基盤看護学特論	小野美穂	筒井邦彦	吳小玉	1 前		2	◎		○	4単位以上
		基盤看護学演習	小野美穂	筒井邦彦	吳小玉	1 後		2	◎		○	
		小計(2科目)						0	4			
	地域看護学領域	公衆衛生看護学特論	辻よしみ	植原千明	藤村保志花	1 前		2	◎		○	
		公衆衛生看護学演習	辻よしみ	植原千明	藤村保志花	1 後		2	◎		○	
		在宅看護学特論	片山陽子	岡田麻里		1 前		2	◎		○	
		在宅看護学演習	片山陽子	岡田麻里		1 後		2	◎		○	
	小計(4科目)						0	8				
	精神保健看護学領域	精神保健看護学特論	則包和也	土岐弘美	多田羅光美	1 前		2	◎		○	
		精神保健看護学演習	則包和也	土岐弘美	多田羅光美	1 後		2	◎		○	
		小計(2科目)						0	4			
	療養支援看護学領域	臨床実践看護学特論	近藤真紀子	岩本真紀	森田公美子	1 前		2	◎		○	
			岡西幸恵									
		臨床実践看護学演習	近藤真紀子	岩本真紀	森田公美子	1 後		2	◎		○	
			岡西幸恵									
		老年看護学特論	竹内千夏			1 前		2	◎		○	
	老年看護学演習	竹内千夏			1 後		2	◎		○		
	小計(4科目)						0	8				
	次世代育成看護学領域	ウィメンズヘルス看護学特論	植村裕子	松下有希子		1 前		2	◎		○	
		ウィメンズヘルス看護学演習	植村裕子	松下有希子		1 後		2	◎		○	
小児看護学特論		枝川千鶴子			1 前		2	◎		○		
小児看護学演習		枝川千鶴子			1 後		2	◎		○		
小計(4科目)						0	8					
特別研究科目	看護学特別研究	片山陽子	近藤真紀子	辻よしみ	2 通	10		◎		○		
		筒井邦彦	則包和也	比江島欣慎								
		枝川千鶴子	小野美穂	吳小玉								
		植村裕子	岩本真紀	岡田麻里								
		土岐弘美	森田公美子	植原千明								
		多田羅光美	竹内千夏	岡西幸恵								
		新井恵津子										
		小計(1科目)										
合計(29科目)						16	50				30単位以上	

ディプロマ・ポリシー (DP)
◎: 非常に対応している ○: 対応している

DP1 研究課題を探求し、研究目的に応じた方法を用いて成果を生み出す能力
DP2 看護の実践と研究において、倫理的判断と行動が遂行できる能力
DP3 専門領域の研究知見と看護実践の動向を把握し、批判的に検討し統合する能力
DP4 他者との討論を通して、自己と他者及びチームの成長につなげる能力

先端医学論 (Medical Frontiers in Health Sciences)											
必修・選択の区別	必修(臨床検査学) 選択(看護学)	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●奥田 潤 (OKUDA Jun)、古山 達雄 (FURUYAMA Tatsuo)、平川 栄一郎 (HIRAKAWA Eiichiro)、樋本 尚志 (HIMOTO Takashi)、多田 達史 (TADA Satoshi)、岡田 仁 (OKADA Hitoshi)										
授業の目的	近年、医学における技術の進歩は目覚ましいものがある。医療の現場に最新の技術が導入された場合、医療従事者として円滑に対応していく必要がある。本講では、注目されている先端医学のトピックス、導入に際しての課題、将来の展望などを学習し、医療現場において先進的医療にも対応できる資質を高めることを目標とする。										
到達目標	①最新医療に導入に際しての課題を倫理面も含め十分理解できる。 ②先端医学の将来の展望などについて考察できる。										
授業の進め方	各回、講義形式で授業を進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	総論①ガイダンス(岡田)									
	2	総論②先端医学の歴史Ⅰ(岡田)									
	3	総論③先端医学の歴史Ⅱ(岡田)									
	4	総論④先端医学導入における対応Ⅰ(岡田)									
	5	総論⑤先端医学導入における対応Ⅱ(岡田)									
	6	各論①老化現象と老化抑制の最新知見Ⅰ(古山)									
	7	各論②老化現象と老化抑制の最新知見Ⅱ(古山)									
	8	各論③病原細菌の宿主細胞内生存戦略Ⅰ(奥田)									
	9	各論④病原細菌の宿主細胞内生存戦略Ⅱ(奥田)									
	10	各論⑤ゲノム診療用病理組織検体の取り扱い(平川)									
	11	各論⑥分子標的薬に対するコンパニオン診断(平川)									
	12	各論⑦ アポトーシスの評価方法とその問題点(樋本)									
	13	各論⑧ オートファジーの評価方法とその問題点(樋本)									
	14	各論⑨ リポタンパク機能と評価方法Ⅰ(多田)									
	15	各論⑩ リポタンパク機能と評価方法Ⅱ(多田)									
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布する。										
事前学習・事後学習	事前学習:各論では各回テーマを提示するので、該当テーマにの概要を把握しておく。 事後学習:各回の重要事項をその日の内に整理しておく。										
他の授業との関連	チーム医療特論、生命・医療倫理論										
成績評価方法・基準・フィードバック	担当教員が発表内容(プレゼンもしくはレポート)を評価し、それらの平均で評価する(100%)。評価基準は、到達目標に達しているか総合的に判定する。フィードバックは個別対応とする。										
オフィスアワー	随時受け付ける。研究室35(古山)、研究室41(平川)、研究室32(樋本)、研究室38(奥田)、研究室36(多田)、研究室45(岡田)										
備考	*実務経験がある教員:古山(医師)、平川(医師)、樋本(医師)、奥田(薬剤師)、多田(臨床検査技師)、岡田(医師)										

チーム医療特論 (Team Medicine and Practice)											
必修・選択の区別	必修(臨床検査学) 選択(看護学)	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担当教員	●多田 達史 (TADA Satashi)、森田 公美子 (MORITA Kumiko)、京極 真 (KYOUGOKU Makoto)										
授業の目的	信念対立を解消し、より建設的なコラボレーションや創造的な医療現場を作ることを目的に、超メタ理論としての構造構成主義の中核概念である関心相関性の原理を学修する。さらに、職種を超えたメンバーでのディスカッションを通して、専門分野に属する自分が考える価値の側面をいったん相対化することで、相手の考える価値を理解し、それを理解した上で(関心相関的視点に立って)、医療現場における信念対立を解消し、より妥当な判断を生み出していくことを具体的な事例を交え探求する。										
到達目標	① チーム医療でおきる信念対立の状況が理解できる。 ② 信念対立を解明する「信念対立解明アプローチ」の理論と技法を理解できる。 ③ 信念対立解明アプローチを職場や生活の場で適用できる。										
授業の進め方	講義、グループディスカッション、実践報告で授業を進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~2	1) 信念対立とは (多田・京極)									
	3~4	2) チーム医療と信念対立									
		3) 信念対立解明アプローチの理論的基盤と技法論的基盤 (多田・京極)									
		4) チーム医療で体験した信念対立と対処法について(グループディスカッション) (多田・森田)									
	5~8	5) 上記で話し合った内容を図・表などにまとめる									
		6) 本授業で学んだことや気づいたことを視点として、各自が実践し、その結果として現場がどのように変わったか、どのような難しさがあったかについて実践報告をする。(多田・森田)									
	9~14	7) まとめ (多田)									
	15										
教科書	資料を配布する										
参考書・参考資料等	医療関係者のための信念対立解明アプローチ:コミュニケーション・スキル入門(誠信書房、京極 真)										
事前学習・事後学習	医療現場で起きている信念対立又は生活の中で起きている信念対立に関心をもって授業に臨むこと。										
他の授業との関連	健康心理看護学特論を学修する際、臨床での問題解決につながる手法を学ぶことが可能。										
成績評価方法・基準・フィードバック	評価の視点: 授業への参加態度(20%)及びプレゼンテーション・レポート等(80%)で総合的に評価する。フィードバックは個別対応とし、評価内容を説明する。										
オフィスアワー	適宜受け付ける。 研究室36(多田)メール: tada@kagawa-puhs.ac.jp、研究室8(森田)メール: morita-k@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	1 集中講義とする。 2 前半を受講後に実践を行い、後半に実践報告を行う。 * 実務経験のある教員: 多田(臨床検査技師)、森田(看護師)、京極(作業療法士)										

保健統計学特論 (Advanced course of Biostatistics)											
必修・選択の区別	必修(公衆衛生看護学)選択	学年次	1	学期	通年	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	比江島 欣慎 (HIEJIMA Yoshimitsu)										
授業の目的	本講義では、研究を計画し、データを収集・管理し、分析・考察し、結果を公表するために必要となる統計学(データサイエンス)的な基本知識および適切な手続きを学ぶ。特に講義の大半が割り当てられる分析・考察の部分では、統計的推定・検定の基本的な考え方や統計量が示す意味をコンピュータの力を借りて学修する。										
到達目標	①統計学における基本的な考え方を説明できる。 ②データに対し適切な記述統計を行いその結果が意味するところを説明できる。 ③データに対し適切な推測統計を行いその結果が意味するところを説明できる。 ④統計的考察に基づいた主張・判断ができる。										
授業の進め方	①対面授業に参加し、ノートをとる。 ②①のノートとオンデマンド教材を使って復習する。 ③知識確認テストを受ける。 ④ノートを整理して提出する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	データサイエンス的思考の基礎【講義】									
	2	データの尺度, データの入力方法【講義】									
	3	記述統計と推測統計【講義】									
	4	区間推定と検定の考え方【講義】									
	5	JMPのインストールと基本的な使い方【講義・演習】									
	6	JMPを使ったデータ分析1(一変量の分布 -記述統計-)【講義・演習】									
	7	JMPを使ったデータ分析2(一変量の分布 -推測統計-)【講義・演習】									
	8	JMPを使ったデータ分析3(二変量の関係 -カイ2乗検定など-)【講義・演習】									
	9	JMPを使ったデータ分析4(二変量の関係 -分散分析など-)【講義・演習】									
	10	JMPを使ったデータ分析5(二変量の関係 -回帰分析など-)【講義・演習】									
	11	JMPを使ったデータ分析6(相関分析)【講義・演習】									
	12	JMPを使ったデータ分析7(重回帰分析など)【講義・演習】									
	13	JMPを使ったデータ分析8(因子分析など)【講義・演習】									
	14	総合演習									
	15	まとめ									
教科書	「ぜんぶ絵で見る医療統計」比江島欣慎(羊土社)										
参考書・参考資料等	適宜、必要な資料を配付する。										
事前学習・事後学習	事前学習: 指定された資料を使って予習する。 事後学習: 講義・演習の内容をノートに整理する。										
他の授業との関連	各領域の特論・演習と特別研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	到達目標の達成状況を①知識確認テスト(約10%)、②演習課題(約30%)、③期末試験(約60%)で総合的に評価する。 評価内容: 基本知識が身についているか(①, ②, ③)、統計学的な思考ができているか(②, ③) フィードバック: 期末試験は、実施後1週間を目安に結果を開示する期間を設け、希望者に結果の内容等を説明する。評価結果については、確認期間を設けて対応する。										
オフィスアワー	授業の前後、および研究室(要事前連絡)にて対応する。										
備考											

生命・医療倫理論 (Health Care and Bioethics)											
必修・選択の区別	必修(助産学) 選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●植村 裕子 (UEMURA Yuko)、岡田 仁 (OKADA Hitoshi)、大栗 聖由 (OGURI Masayoshi)、中澤 留美 (NAKAZAWA Rumi)										
授業の目的	バイオサイエンスおよび医療に従事する研究者、高度専門職業人は、人権、生命倫理に十分な配慮を行いながら、医療を実践して行かなければならない。生命科学の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題、古くから解決の難しい医療倫理の問いについて、包括的にあるいは個別に、基礎知識や基本的考え方を学ぶとともに実例により理解を深める。										
到達目標	①生命倫理の問題について広く概説できる。 ②それぞれの問題について理解を深め、自分なりの考え方を示すことができる。 ③実際の医療、研究の場面においてチームで議論するための基本的考え方や構えを身につけることができる。										
授業の進め方	主に講義形式で授業を行うが、グループワーク、事前学習、プレゼンテーション、討議などの方式を用いながら、自ら考えることを中心に生命・医療倫理を身近に感じてもらう。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	人間とその尊厳(岡田)【講義】									
	2	新生児医療(岡田)【講義】									
	3	遺伝子・遺伝性疾患、遺伝カウンセリング(岡田)【講義】									
	4	再生医療(岡田)【講義】									
	5	脳死と臓器移植(岡田)【講義】									
	6	救急医療、災害医療(岡田)【講義】									
	7	患者の権利とインフォームドコンセント(大栗)【講義】									
	8	ヒトを対象とする医学系研究に関する倫理指針 倫理委員会の役割(大栗)【講義】									
	9	生殖補助医療技術における子の出自を知る権利(南)【講義】									
	10	生命倫理の今日的課題(植村)【講義】									
	11	臨床倫理(植村)【講義】									
	12	生命倫理に関する討議①(植村)【発表・討議】									
	13	生命倫理に関する討議②(植村)【発表・討議】									
	14	生命倫理に関する討議③(植村)【発表・討議】									
	15	生殖補助医療、出生前診断・着床前診断(中澤)【講義】									
教科書	特に指定しない										
参考書・参考資料等	なぜ生命倫理なのか(大学教育出版) 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 ガイダンス(最新版)										
事前学習・事後学習	事前学習: 日頃から生命倫理に関するニュース、記事に興味をもってほしい。 事後学習: 医療に携わり修士課程を修めるものとして生命倫理について自らの考えを述べられる。										
他の授業との関連	医療に携わり修士課程を修めるものとして、その専門分野が何であれ、生命倫理の基礎を学ぶことは大きな力となると考える。										
成績評価方法・基準・フィードバック	課題のプレゼンテーション、討議、レポートにより総合的に評価する。 1～6回40%、7～8回10%、9回10%、10～14回30%、15回10%の評価配分とする。 評価の視点: 担当教員が行う各担当項目に関する倫理的な考え方を中心としてプレゼンテーション、討議、レポートが行われているか評価する。 フィードバックは各担当教員ごとに時期を設定し行う。 * 原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ、評価を受けられない。										
オフィスアワー	研究室31(植村) 個別に対応する。以下のメールアドレスに要件を書いて事前に予約をとる。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	意見や質問を歓迎し、授業への積極的な参加を希望します。 * 実務経験のある教員: 植村(助産師)、岡田(医師)、大栗(臨床検査技師)										

英論文作成概論 (Introduction to the Creation of English Papers)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	●南 貴子(MINAMI Takako)										
授業の目的	医療系の英文の読解を通して、医療系英文のスタイルに慣れると同時に、英語論文作成において必要となる基本的英語力を養う。										
到達目標	医療従事者として養っておくべき英語力を高め、医療英語・英語論文作成に必要な基礎的知識を身につける。										
授業の進め方	毎回、担当者を決めて、文献の報告を行う。報告担当の回に無断欠席した場合は、単位を認めない。必要に応じて視聴覚教材を用いる。授業には、英語辞典を持参すること。 英文の正確な内容把握と語彙力の強化を図るため、定期的に小テストを行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	授業ガイダンス									
	2	Medical Topic 1									
	3	Medical Topic 2									
	4	Medical Topic 3									
	5	Medical Topic 4									
	6	Medical Topic 5									
	7	Medical Topic 6									
	8	Review 1									
	9	Medical Topic 7									
	10	Medical Topic 8									
	11	Medical Topic 9									
	12	Medical Topic 10									
	13	Medical Topic 11									
	14	Medical Topic 12									
	15	Review 2									
教科書	適宜指示する。										
参考書・参考資料等	適宜指示する。										
事前学習・事後学習	発表者以外の受講生も全員、毎回文献を読んでくることが前提となる。										
他の授業との関連	最低限の英語力は、大学院における研究の基礎となります。										
成績評価方法・基準・フィードバック	平常点80点、定期試験20点 原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価を受けられません。										
オフィスアワー	適宜対応(要事前予約)										
備考	不定期に課題を出します。「授業を欠席・遅刻したことにより課題提出について知らなかった」等は、提出を遅らせる理由として認められませんので、注意してください。 授業内容については授業の進行の都合上、若干変更する場合があります。										

看護理論 (Nursing Theory and Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●近藤真紀子(KONDO Makiko),小野美穂(ONO Miho), 岩本真紀(IWAMOTO Maki), 森田公美子(MORITA Kumiko), 岡西幸恵(OKANISHI Sachie)										
授業の目的	実践における看護理論の必要性和活用方法について学ぶ。										
到達目標	①理論とは何かについて説明できる。 ②看護学において、理論がなぜ必要かについて説明できる。 ③理論の実践への応用について説明できる。 ④理論の生成・評価・検証について説明できる。 ⑤主要な理論について説明できる。 ⑥理論を実践の場でどのように活用でき、それによってどのような効果が期待できるのかを、具体的な事例を挙げて説明することができる。										
授業の進め方	課題1～3についてグループワークを行い、プレゼンテーション・ディスカッションを行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	2	課題1～3の進め方:グループワーク (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	3	課題1(到達目標⑤):グループワーク(理論の選定) (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	4	課題1(到達目標⑤):グループワーク(選択した理論に関する学習) (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	5	課題1(到達目標⑤):グループワーク(プレゼンテーションの準備) (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	6	課題2(到達目標⑥):グループワーク(事例の選択) (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	7	課題2(到達目標⑥):グループワーク(事例の分析) (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	8	課題2(到達目標⑥):グループワーク(プレゼンテーションの準備) (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	9	課題3(到達目標①～④):グループワーク(理論とは何か、看護における理論の意義) (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	10	課題3(到達目標①～④):グループワーク(実践での理論の活用、理論の生成・評価・検証) (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	11	課題3(到達目標①～④):グループワーク(プレゼンテーションの準備) (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	12	プレゼンテーション&ディスカッション:課題1 (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	13	プレゼンテーション&ディスカッション:課題2 (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	14	プレゼンテーション&ディスカッション:課題3 (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	15	総括 (近藤・小野・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
教科書	筒井真優美:看護理論の業績と理論評価, 医学書院.										
参考書・参考資料等	佐藤栄子著(2009):中範囲理論入門—事例を通して優しく学ぶ(日総研出版). 野川 道子著(2010):看護実践に活かす中範囲理論(メジカルフレンド社). Jacqueline Fawcett,太田喜久子(翻訳)(2008):フォーセット看護理論の分析と評価(医学書院).										
事前学習・事後学習	教科書・参考書に目を通し、理論の概要について事前学習を行う。 グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションを通して、各専門領域における実践や、各自の修士論文・課題研究に、理論がどのように関連するのかを熟考する。										
他の授業との関連	看護学特別研究、課題研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	グループワークへの貢献度(20%)、プレゼンテーションの完成度(50%)、最終レポート(30%)。 フィードバックは、各回のグループワーク時、プレゼンテーション後など、必要に応じてその都度行う。										
オフィスアワー	随時										
備考	実務経験のある教員:近藤(看護師) 小野(看護師) 岩本(看護師) 森田(看護師) 岡西(看護師)										

看護と哲学(Philosophy in Nursing Practice)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●近藤真紀子(KONDO Makiko), 森田公美子(MORITA Kumiko), 出村和彦(DEMURA Kazuhiko)										
授業の目的	<p>看護学と哲学は、離れた存在に見える。しかし、医療の現場で起きる疑問や問いに対し、深く「考える」ためには、哲学的思索が必要である。看護実践における問いに対し、既成の概念や枠組みを棚上げした上で、根本的に問い考え捉えなおすことで、実践した看護の重要性や普遍性を再認識するとともに、新しい考え方や枠組みを創出することが可能になる。</p> <p>本講では、これまでの哲学の流れを学修し、「人間は世界をどう認識しているのか」についての理解を深めるとともに、哲学の必要性を認識したエピソードを自己開示し、その問いに対する考えと根拠を示し、知識や価値観の体系化に挑戦する。</p>										
到達目標	<p>① 哲学の基本的事項が説明できる。</p> <p>② 哲学が、なぜ看護実践において必要か説明できる。</p> <p>③ 看護実践で体験したエピソードについて、何が起きているのか、何が問題なのかについて、根拠を示しながら哲学的に分析できる。</p> <p>④ 現象学と看護実践の関連について説明できる。</p> <p>⑤ ケアリングと看護哲学について説明できる。</p>										
授業の進め方	講義、グループディスカッション、実践報告で授業を進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1-5	I. 哲学の基礎 (出村・近藤)【講義・討議】 1. 哲学とは何か 2. 哲学はなぜ必要か 3. 哲学は宗教・科学・倫理・美学などどのように異なるのか 4. 哲学は何についてどのように思考するのか 5. 哲学における学問的な戦略(研究方法論など)はどのようなものか 6. 哲学が現代社会になぜ必要か 7. 哲学は医療に何をもたらすのか									
	6-10	II. 看護ケアの現象学 (坂井志織)【講義・討議】									
	11-12	III. ケアリングと看護哲学 (近藤)【講義・討議】 1. Holism 2. Caring 3. Jean WatsonのTranspersonal caring									
	13-14	IV. 専門看護師とケアリング (森田)【講義・討議】									
	15	V. まとめ(近藤)【講義・討議】									
教科書	授業の中で提示する。										
参考書・参考資料等	講義の中で提示する										
事前学習・事後学習	医療現場で生じる疑問に関心をもって授業に臨むこと。										
他の授業との関連	チーム医療特論と関係し、専門領域科目と特別研究に発展する基礎的な科目である。										
成績評価方法・基準・フィードバック	評価方法は、レポート(30点)、授業でのプレゼンテーション(50点)・討論での発言内容(20点)とする。看護における現象に対して問いを立て、それに対して、思い込みを排除しつつ、筋道を立てて本質を深く探求しているかを評価基準とする。フィードバックは、全体あるいは個別に行う。										
オフィスアワー	適宜										
備考	1 集中講義とする。 2 後半に哲学の必要性を認識したエピソードを自己開示し、その問いに対する考えと根拠をプレゼンテーションする。 ※実務経験のある教員:近藤(看護師),森田(がん看護専門看護師)										

質的研究方法論 (Qualitative Approach for Nursing Study)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・討議・演習
担当教員	●近藤 真紀子 (KONDO Makiko)、岩本 真紀 (IWAMOTO Maki)、岡田 麻里 (OKADA Mari)、岡西 幸恵 (OKANISHI Sachie)										
授業の目的	質的帰納的研究手法を用いた論文のクリティーク、質的研究手法を用いた修士論文の取り組みを目指して、質的研究の基礎について探求する。										
到達目標	① 研究・実践・理論の関係性について理解できる。 ② 研究の問いと研究デザインについて理解できる。 ③ 看護実践における質的研究の意義について理解できる。 ④ 質的研究の種類と学術的基盤について説明できる。 ⑤ 質的研究におけるデータ収集の方法について説明できる。 ⑥ 質的研究における分析方法について説明できる。 ⑦ 質的研究のクリティークについて説明できる。										
授業の進め方	学生のグループワーク、プレゼンテーションを中心に授業をすすめる。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～2	研究・実践・理論の関係性(岩本)【講義・演習】 看護実践における質的研究の意義(岩本)【講義・演習】 研究の問いと研究デザイン(岩本)【講義・演習】 質的研究の理論的基盤、量的研究との違い(岩本)【講義・演習】									
	3～4	質的研究における論文レビューとクリティーク(岩本)【講義・演習】									
	5～6	質的研究におけるデータ収集と分析方法(岡田)【講義・演習】									
	7～8	質的研究の種類と学術的基盤(1)現象学的アプローチ(岡田)【演習】 質的研究の種類と学術的基盤(2)グラウンデッド・セオリー・アプローチ(岩本)【演習】									
	9～10	質的研究の種類と学術的基盤(3)エスノグラフィー(岡田)【演習】									
	11～12	質的研究の種類と学術的基盤(4)質的記述的研究(岩本)【演習】									
	13～14	質的研究のクリティーク(岩本)【演習】									
	15	まとめ(岩本・岡田)【演習】									
教科書	黒田裕子, 中木高夫, 逸見功監訳: パーンズ&グローブ看護研究入門 評価・統合・エビデンスの生成(エルゼビア・ジャパン株式会社)										
参考書・参考資料等	講義の中で紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習: シラバスや授業計画を確認し、該当部分について、学生同士の意見交換や討議ができるように準備しておく。 事後学習: 授業内容の復習をして、理解度を高める。										
他の授業との関連	特別研究と直結する。										
成績評価方法・基準・フィードバック	プレゼンテーション資料(30%)、グループワークへの貢献と参加(40%)、クリティーク資料と発表(30%)。 フィードバックは、プレゼンテーションに対して、その都度行う。										
オフィスアワー	在室時は、適宜対応する。 不在時は、メールなどにより日程調整を行う。										
備考	※実務経験のある教員: 近藤(看護師) 岩本(看護師) 岡田(看護師)										

量的研究方法論(Quantitative Approach for Nursing Study)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	通年	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●比江島 欣慎(HIEJIMA Yoshimitsu)、片山 陽子(KATAYAMA Yoko)、竹内千夏(TAKEUCHI chinatsu)										
授業の目的	ライフサイエンスに関連する各分野において、集団を対象にしたデータ収集をとまなう研究は、エビデンスの導出など当該分野の発展において重要な役割を果たしている。本講義では、定量的データを介して真理を探究する研究(量的研究)の実施ために、研究計画、データ収集・管理、データ分析、結果の公表の各段階において必要となる手続き、疫学・統計学的知識、技術の修得を目指す。										
到達目標	①学問や科学について自分の立場や考えを論理的に説明できる。 ②データに基づいた因果推論の基本を説明できる。 ③各種研究デザインの特徴や違いを説明できる。 ④研究デザインに応じた統計指標の選択し、バイアスを考慮した指標の解釈ができる。 ⑤データを介して真理を探究するプロセスを実践できる。										
授業の進め方	①対面授業に参加し、ノートをとる。 ②①のノートとオンデマンド教材を使って復習する。 ③知識確認テストを受ける。 ④ノートを整理して提出する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	学問とは？科学とは？【講義・討論】									
	2	科学哲学・因果推論【講義】									
	3	因果推論とランダム化比較試験【講義】									
	4	観察研究のデザイン【講義】									
	5	研究デザインと分析方法【講義】									
	6	研究デザインと分析方法【演習】									
	7	バイアス【講義】									
	8	交絡への対処【講義】									
	9	因果推論を目的とした研究の進め方、論文の読み方【講義】									
	10	研究倫理【講義・討論】									
	11	論文講読1【演習・討論】									
	12	論文講読2【演習・討論】									
	13	尺度開発と因子分析【講義・演習】									
	14	総合演習									
	15	まとめ									
教科書	「ぜんぶ絵で見る医療統計」比江島欣慎(羊土社)										
参考書・参考資料等	適宜、必要な資料を配付する。										
事前学習・事後学習	事前学習:指定された資料による予習、適宜教員が指示する準備を行う。 (第1回については、講義内で討論をするので、「学問とは?」、「科学とは?」、「真理とは?」について自分なりの考えをまとめておくこと)。 事後学習:講義・演習・討論の内容をノートに整理する。										
他の授業との関連	保健統計学特論(選択)の履修を強く望む。 看護理論・質的研究方法論の既習内容および保健統計学特論とあわせて特別研究に活かすことのできる科目である。										
成績評価方法・基準・フィードバック	到達目標の達成状況を①知識確認テスト(約10%)、②演習課題(約10%)、③講義への参加状況やプレゼン・討議内容(40%)、④期末試験(約40%)で総合的に評価する。 評価内容:基本知識が身についているか(①, ②, ③, ④)、学修に積極的に取り組んでいるか(③)、科学的に真理を探究する思考ができていないか(②, ③, ④)。 フィードバック:評価結果の確認、疑問・申し立ての期間を設けて対応する。										
オフィスアワー	授業の前後、および研究室(要事前連絡)にて対応する。										
備考	※実務経験のある教員:片山(看護師) 竹内(看護師)										

地域包括ケア特論 (Advanced of Community based Comprehensive Care)											
必修・選択の区別	必修(実践者養成 コース) 選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●辻よしみ(TSUJI Yoshimi)、片山陽子(KATAYAMA Yoko)										
授業の目的	地域包括ケアが求められる社会情勢や法整備の状況を理解するとともに、現状の地域包括ケアシステムに対して、学生自身の立ち位置から見える課題を探究できる。										
到達目標	①保健・医療・福祉に関する政策の変遷とその背景について説明できる。 ②地域包括ケアシステムの概要と課題を説明できる。 ③保健・慰労・福祉の多職種連携と協働について考究できる。 ④対象者本人や家族が望む地域生活を遅れるために必要な看護マネジメントの意義を考究できる。										
授業の進め方	講義と演習・課題の発表と意見交換を行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~2 3~4 5~6 7~8 9~12 13~15	医療・保健・福祉を取り巻く制度の変遷と社会背景について(辻)【講義】 地域包括ケアシステムにおける病院、訪問看護ステーション、地域包括支援センターの役割と機能(片山)【講義】 地域包括的拠点を重視した看護マネジメントの意義(片山)【講義・演習】 保健・医療・福祉の多職種連携と協働の意義と課題(辻)【講義・演習】 地域包括的視点を重視した看護マネジメント事例検討、学生が事例提供(片山・辻)【演習】 地域包括ケアシステムから地域共生社会で果たす看護職の役割と課題事例検討(片山・辻)【演習】									
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	授業時に紹介する。										
事前学習・事後学習	(事前学習)これまでの看護実践と講義演習が関連できるように、自己の実践を具体的に語れるように準備しておく、また、事例提供できるように準備しておく(事後学習)実践と講義を統合して自己の課題や探究する研究課題を整理する。										
他の授業との関連	自己の実践課題や研究課題と関連付け、各看護学特論・演習や看護学特別研究に反映させる。										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価は受けられない。 成績評価:課題のプレゼンテーション内容と参加度(50%)、課題レポート(50%)により総合的に評価する。 評価基準:討論への積極性、プレゼンテーション力、課題探究力 フィードバック:課題プレゼンは授業ごとにコメントを伝える。取り組みは最終講義で全過程を振り返るとともに疑問質問に対応する。課題レポートを評価しコメントを提示する。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	* 実務経験のある教員 片山(保健師・看護師)、辻(保健師・看護師)										

看護政策特論(Nursing Policy)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●井伊 久美子 (Ii Kumiko)										
授業の目的	看護制度と政策との関連を理解し、看護に求められる社会的責務と看護政策推進について探求する。										
到達目標	①看護にとっての政策課題とその変遷について理解する。 ②政策形成過程を理解し、その過程への参画について学ぶ。 ③看護政策実現の具体的な動きを知り、そのインパクトについて学ぶ。										
授業の進め方	講義及び課題についてのプレゼンテーションを行い、学生間及び教員との討論により学習を深める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~3	医療制度と看護制度の概観【講義】									
	4~6	看護政策課題の成り立ち【講義】									
	7~9	看護政策形成過程例の分析【講義・GW】									
	10~12	看護政策に係るプレイヤーとパワーゲーム【講義・GW】									
	13~15	看護政策の推進策【GW】									
教科書	「私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法」日本看護協会出版会										
参考書・参考資料等	随時紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習：関心のある看護政策課題について情報収集しておく。 事後学習：看護政策推進に関する自身の問題意識を整理し、考察を深める。										
他の授業との関連	地域包括ケア特論、チーム医療特論										
成績評価方法・基準・フィードバック	授業参加度(20%)、プレゼンテーション(30%)、期末レポート(50%) 原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価を受けられません。 評価については、疑問等受け付ける期間を設け、評価内容を説明する。										
オフィスアワー	在席時対応										
備考	※実務経験のある教員：井伊(保健師)										

看護教育学特論(Nursing Education)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・討論
担当教員	●小野 美穂(ONO Miho)										
授業の目的	看護専門職の継続教育およびキャリア開発に関する諸理論を理解し、看護学教育(基礎教育・継続教育)を展開する場で活用する能力を身につける。										
到達目標	①看護キャリア開発に関する考え方を理解し、自己及び他者のキャリア開発について検討できる。 ②看護実践能力の概念を理解し、能力開発の方法と評価について現状分析できる。 ③成人学習の原理について理解し、看護教育指導者としての支援方法について説明できる。 ④看護専門職のキャリア及び能力開発の考え方をもとに、看護学生や看護職者への教育体制や教育環境の在り方について考えを述べるができる。										
授業の進め方	講義および学生のプレゼンテーションと、それに基づく討論によって学習を深める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	看護学教育の歴史的編変遷と動向【講義・討論】									
	2	看護継続教育の現状と課題:「日本と米国の比較」【講義・討論】									
	3	仕事に必要な実践能力とは「実践能力の構造と実践知の獲得」【講義・討論】									
	4	看護実践能力とは、様々な定義の検討【講義・討論】									
	5	看護における臨床判断【講義・討論】									
	6	臨床判断や実践の成長を支えるリフレクション【講義・討論】									
	7	キャリア開発の概念【講義・討論】									
	8	学習と指導に関する理論「学習意欲」「自尊感情」「自己効力感」【講義・討論】									
	9	学習と指導に関する理論「役割理論」「組織社会化」「アサーティヴネス」【講義・討論】									
	10	教育プログラムの構築方法、目標設定【講義・討論】									
	11	学習形態、成人学習者が主体的に学ぶための原理【講義・討論】									
	12	集合学習と実践での学習の組み立て【講義・討論】									
	13	教育評価に関する考え方【講義・討論】									
	14	看護実践の評価指標【講義・討論】									
	15	看護実践の評価指標の開発方法【講義・討論】									
教科書	特に使用しない。										
参考書・参考資料等	授業内容に沿った文献資料を提示する。										
事前学習・事後学習	事前学習:文献資料の授業に沿った該当部分を読んでおく。 事後学習:授業での文献資料を読み直し、自分の経験を振り返り考えを明確にしておく。										
他の授業との関連	各自の研究課題と関連づけながら看護学教育の理解を深める。										
成績評価方法・基準・フィードバック	<成績評価方法> ○授業参加度(30%:積極性、議論の充実と内容の深まり) ○期末レポート(70%:学習内容の理解度、論理一貫性、言語表現の適切性、文章のよみやすさ) <成績評価のフィードバック> 2月末までにコメントを入れて返却する。										
オフィスアワー	メールで質疑応答する。(ono-m@kagawa-puhs.ac.jp)										
備考	※実務経験のある教員:小野(看護師)										

基盤看護学特論 (Fundamental Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・発表・討論
担当教員	●小野 美穂 (ONO Miho)、筒井 邦彦 (TSUTSUI Kunihiko)、呉 小玉 (WU Xiaoyu)										
授業の目的	看護師が行う看護実践に関して、自己の関心のある現象から研究領域や研究対象を検討する。										
到達目標	①関心ある看護現象に関連する主要な概念や方法について説明できる。 ②関心ある問題現象について、問題の本質と課題について分析できる。										
授業の進め方	前半は、講義を受けて具体的な経験や現象と関連づけながら討論する。後半は、学生がプレゼンテーションしその内容に基づいて討論する。授業内容やスケジュールは、学生の希望や関心事項によって漸次修正する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	看護実践の基盤となる主要概念の検討①(小野・呉)【講義・討論】									
	2	看護実践の基盤となる主要概念の検討②(小野・呉)【講義・討論】									
	3	看護実践の基盤となる主要概念の検討③(小野・呉)【講義・討論】									
	4	看護実践の基盤となる主要概念の検討④(小野・呉)【講義・討論】									
	5	看護実践の基盤となる方法論の検討①(小野・呉)【講義・討論】									
	6	看護実践の基盤となる方法論の検討②(小野・呉)【講義・討論】									
	7	看護実践の基盤となる方法論の検討③(小野・呉)【講義・討論】									
	8	看護実践の基盤となる方法論の検討④(小野・呉)【講義・討論】									
	9	関心ある問題現象の分析①(小野・筒井・呉)【発表・討論】									
	10	関心ある問題現象の分析②(小野・筒井・呉)【発表・討論】									
	11	関心ある問題現象の分析③(小野・筒井・呉)【発表・討論】									
	12	関心ある問題現象の分析④(小野・筒井・呉)【発表・討論】									
	13	研究領域と研究対象の検討①(小野・筒井・呉)【発表・討論】									
	14	研究領域と研究対象の検討②(小野・筒井・呉)【発表・討論】									
	15	研究領域と研究対象の検討③(小野・筒井・呉)【発表・討論】									
教科書	使用しない。										
参考書・参考資料等	参考文献は授業開始時および授業の中で随時紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習: 授業テーマに関連する文献を精読する、資料を作成し発表する。 事後学習: 授業の中で指摘や質問を受けたこと、討論する中で疑問に感じたことを確認しておく。										
他の授業との関連	「基盤看護学演習」「看護学特別研究」につながる基本的科目										
成績評価方法・基準・フィードバック	○成績評価の対象: 授業参加度(20%)、プレゼンテーション(40%)、レポート成果(40%) ○成績評価の基準: 「論理的思考」「読解力、内容の理解度」「記述説明力」 ○成績結果のフィードバック: 前期終了時に成績結果を伝える。										
オフィスアワー	日時を調整し対応する。										
備考	※実務経験のある教員: 小野(看護師)、呉(看護師) 筒井(医師)										

基盤看護学演習 (Seminar in Fundamental Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●小野 美穂 (ONO Miho)、筒井 邦彦 (TSUTSUI Kunihiko)、呉 小玉 (WU Xiaoyu)										
授業の目的	国内外の文献検討に基づいて自己の研究課題を設定する。研究課題に応じた研究方法を検討し、研究計画書として完成させる。										
到達目標	①文献レビューの方法について説明できる。 ②自分の研究課題に関する研究論文を検索し入手できる。 ③研究論文の情報を整理し資料として提示できる。 ④個々の研究論文を評価し、評価した内容を提示できる。 ⑤評価した研究論文の全体傾向を総括し、自分の研究課題が設定できる。 ⑥研究計画書が作成できる。										
授業の進め方	文献レビューに関する講義と演習で進める。演習では、学生がプレゼンテーションしその内容に基づいて討論する。授業内容やスケジュールについては学習の進捗状況に応じて漸次修正する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	文献レビューの方法(小野)【講義・討論】									
	2	研究計画書について(小野)【講義・討論】									
	3	文献レビュー総説等の文献研究(小野・筒井・呉)【演習】									
	4	文献レビュー量的研究(小野・筒井・呉)【演習】									
	5	文献レビュー量的研究(小野・筒井・呉)【演習】									
	6	文献レビュー量的研究(小野・筒井・呉)【演習】									
	7	文献レビュー質的研究(小野・筒井・呉)【演習】									
	8	文献レビュー質的研究(小野・筒井・呉)【演習】									
	9	文献レビュー質的研究(小野・筒井・呉)【演習】									
	10	文献検討の整理・総括(小野・筒井・呉)【演習】									
	11	文献検討の整理・総括(小野・筒井・呉)【演習】									
	12	文献検討の整理・総括(小野・筒井・呉)【演習】									
	13	研究計画書の検討(小野・筒井・呉)【演習】									
	14	研究計画書の検討(小野・筒井・呉)【演習】									
	15	研究計画書の検討(小野・筒井・呉)【演習】									
教科書	特に使用しない。										
参考書・参考資料等	授業開始時に紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習: 入手した文献を精読する。 事後学習: 授業で意見交換したことや疑問に感じたことを確認し検討しておく。										
他の授業との関連	基盤看護学特論での学習を受けて行う科目であり、看護学特別研究に向けた科目である。										
成績評価方法・基準・フィードバック	○成績評価の対象: 授業参加度(20%)、プレゼンテーション内容(40%)、レポート(40%) ○成績評価のフィードバック: 研究計画書完成時に結果を伝える。										
オフィスアワー	日時調整して対応する。										
備考	※実務経験のある教員: 小野(看護師)、呉(看護師) 筒井(医師)										

公衆衛生看護学特論(Advanced of Public Health Nursing)											
必修・選択の区別	選択 必修(公衆衛生看護学)	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●辻よしみ(TSUJI Yoshimi)、植原千明(UEHARA Chiaki)、藤村保志花(FUJIMURA Hoshika)										
授業の目的	公衆衛生看護の理念と活動を理解し、地域診断に関連するモデルや地域で生活する人々に対する科学的根拠に基づく多様な看護実践の方法論を学び、個人・家族・集団・地域の健康と自立を旨とする専門的実践のあり方を検討する。また、保健師の専門性を修得できる保健師教育の方法を探究する。										
到達目標	①地域の健康課題を解決するために用いる公衆衛生看護のモデルや理論を説明できる。 ②地域で生活する対象の自立を目指した専門的実践方法を検討できる。 ③保健師の役割や機能について検討できる。 ④地域の健康課題について文献等から系統的に整理し、課題解決に必要な方法を検討できる。										
授業の進め方	公衆衛生看護学のモデルや理論および公衆衛生看護学の教育課程を講義する。また、学生の研究課題に即して、必要なテーマについて教授するとともに課題の理論的背景を学生が整理する。その後、教員から出された課題についてプレゼンテーションを行い学生間の討議をする。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~2	変動する社会情勢の中で求められる公衆衛生看護の課題と役割(辻)【講義】 公衆衛生看護の基盤とする地域診断モデルと関連モデル(辻)【講義】									
	3~4	ヘルスプロモーションの歴史的・哲学的・理論的視点(辻)【講義】 公衆衛生看護の歴史から見出す保健師に求められる実践能力(辻)【講義】									
	5~6	保健師のコンピテンシー、保健師の活動指針(辻)【講義】 保健師機能と役割【講義、討議】									
	7~8	公衆衛生看護における今日的課題①(辻・植原・藤村)【講義、討議】 公衆衛生看護における今日的課題②(辻・植原・藤村)【講義、討議】									
	9~10	文献レビューと探求課題の検討(辻・植原・藤村)【プレゼン・討議】 文献レビューと探求課題の検討(辻・植原・藤村)【プレゼン・討議】									
	11~12	CQとRQ・課題の明確化(辻・植原・藤村)【プレゼン・討議】 設定課題のプレゼンテーション(辻・植原・藤村)【プレゼン・討議】									
	13~14 15	まとめ(辻・植原・藤村)【演習・発表】									
教科書	金川克子・早川和生監訳:コミュニティアズパートナーモデル 地域看護学の理論と実際(医学書院) 神馬征峰訳:実践ヘルスプロモーション PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価(医学書院) 宮本ふみ:無名の語り(医学書院)										
参考書・参考資料等	新体系看護学全書 別巻 ヘルスプロモーション (メジカルフレンド)										
事前学習・事後学習	公衆衛生看護の理念や基盤となる理論やモデルを復習しておく。 毎回の講義と自己の研究課題とを照らし合わせて、さらに探求しておく自己の課題を明確にする。										
他の授業との関連	公衆衛生看護学演習、看護学特別研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ評価を受けられない。 評価方法:授業への主体的参加を重視し討議素材の準備(40%)、レポートの成果(60%)を統合して評価する。 評価基準:レポートでは知識、課題発見力、論理的思考力を、討議素材の準備、プレゼンで討議への主体的参加度を評価する。 フィードバック:各授業の終わりに課題を整理するとともに疑問点について対応する。最終講義において全過程を振り返り、疑問等に応える。										
オフィスアワー	随時対応する。(辻:研究室3)										
備考	*実務経験のある教員 辻(保健師)、植原(保健師)、藤村(保健師)										

公衆衛生看護学演習 (Seminer in Public health Nursing)											
必修・選択の区別	選択 必修(公衆衛生看護学)	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	●辻よしみ (TSUJI Yoshii)、植原千明 (UEHARA Chiaki)、藤村保志花 (FUJIMURA Hoshika)										
授業の目的	地域診断や個別事例から地域の健康課題をアセスメントし、地域住民の健康と自立を目指す保健計画の立案など地域における看護実践能力や方策について探求するとともに、演習を通して研究課題を見出し、研究計画書を作成する。										
到達目標	①日頃の地域活動における疑問や気づきから健康課題を理論に基づき抽出し考察できる。 ②取り上げた地域の健康課題やそれに対応した公衆衛生看護活動に関する文献をレビューする。 ③取り上げた地域の健康課題を解決するために必要な研究方法の選択ができる。 ④文献レビューにより絞られた研究課題に応じた研究計画書を作成できる。										
授業の進め方	公衆衛生看護学の基本的な方法論を活用して、対象地域のアセスメントを行い抽出された健康課題、健康課題から絞られた研究課題や研究計画についてプレゼンテーションし討議する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~2	地域(各担当フィールド)のコミュニティ・アセスメントをする(辻・植原・藤村)【講義】									
	3~4	コミュニティアセスメントによる健康課題の発表と討議(辻・植原・藤村)【演習】									
	5~6	個別事例からみた地域の健康課題の発表と討議(辻・植原・藤村)【演習】									
	7~8	地域の課題や個別事例から自己の研究課題を絞る(辻・植原・藤村)【演習】									
	9~10	研究課題に基づく文献レビューについて討議する(辻・植原・藤村)【演習】									
	11~12	研究課題に対応した研究方法を検討する(辻・植原・藤村)【演習】									
	13~15	研究計画書を立案し発表する(辻・植原・藤村)【演習】									
教科書	金川克子・早川和生監訳:コミュニティ・パートナーモデル 地域看護学の理論と実際(医学書院) 神馬征峰、実践ヘルスプロモーション PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価(医学書院)										
参考書・参考資料等	神馬政峰、保健プログラムの企画・実装・評価 PROCEED-PROCEED モデルの進化と革新(医学書院)										
事前学習・事後学習	事前学習:地域情報や自己の活動における課題を整理しておく。事後学習:研究計画書に向けて課題を明確にし、現実的に妥当な研究計画に仕上げていくように、自己の課題を整理し取り組む。										
他の授業との関連	特別研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価は受けられない。 授業への主体的参加を重視し、討議資料の準備(20%)、プレゼン(10%)課題達成状況(20%)、研究計画書(50%)を総合的に評価する。 評価基準:レポートでは知識、課題発見力、論理的思考力を、討議資料の準備、プレゼンで討議への主体的参加度を評価する。 各授業の終わりに課題を整理するとともに疑問点について対応する。フィードバック:実習最終において全過程を振り返り、フィードバックを実施し疑問等に応える。										
オフィスアワー	随時対応する。(辻:研究室3)										
備考	*実務経験のある教員 辻(保健師)、植原(保健師)、藤村(保健師)										

在宅看護学特論(Home Care Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●片山 陽子(KATAYAMA Yoko) 岡田 麻里(OKADA Mari)										
授業の目的	在宅療養者と家族が望む生活と生き方を支援するために必要な理論やモデル、教員の研究テーマについて学び、対象の自立と自律の向上に貢献するための方略を探究する。また、在宅看護に関連する今日的課題、学生個々の探究課題に関して文献の統合レビューを行った上で、クリティカルな思考をもち討議する中で、研究課題を明確化し系統的に情報収集・分析し表現することができる。										
到達目標	①在宅看護の今日的課題、我が国の政策と課題を分析し討議できる。 ②教員の研究テーマについて研究内容と方法論を理解し討議できる。 ③関心課題に関する文献統合レビューを実施し説明できる。 ④関連理論についてディスカッションし自己の主張と課題を含め説明できる。 ⑤主体的に学習しプレゼンテーションにて表現し、討議できる。 ⑥修士論文で探究すべき研究課題を焦点化し説明できる。										
授業の進め方	講義、課題に関して主体的に学習し、各授業においてその成果に基づきプレゼンテーション及び討議を行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス、大学院において在宅看護を探究する意義(片山・岡田)【講義、討議】									
	2	我が国の在宅ケアの政策動向(片山・岡田)【講義、討議】									
	3～5	在宅医療、ケアの今日的課題と研究動向(片山・岡田)【講義、討議】									
	6・7	臨床疑問から研究疑問への転換方法(片山)【講義】									
	8～10	在宅看護の関連理論の理解(片山・岡田)【プレゼン、討議】									
	11～12	文献統合レビューと探究課題の焦点化(片山・岡田)【講義、討議】									
	13	探究課題とRQの明確化(片山・岡田)【講義、討議】									
	14～15	設定課題に関するプレゼンテーションの実施①②(片山・岡田)【プレゼン、討議】									
教科書	適宜紹介する。										
参考書・参考資料等	授業ごとに紹介する。										
事前学習・事後学習	【事前学習】 ・シラバスと初回授業時に配布した授業詳細計画を確認し、各自の探究課題に関するプレゼンテーションができるよう準備する。 【事後学習】 ・授業内容を整理し、自己理解の状況を確認する。										
他の授業との関連	・本授業は後期の在宅看護学演習、2年次の特別研究に連動、発展する。 ・研究方法論の授業内容とその学習成果を統合しながら主体的に学習を進めること。										
成績評価方法・基準・フィードバック	成績評価：①プレゼンテーションの成果と討議内容と貢献度(50%)②文献レビューワークシート・課題レポート(50%) 評価基準：①課題発見、資料のわかりやすさと論理的説明力、協働学習力 ②内容の理解度、論理的思考力、記述表現の適切性 フィードバック：①は実施時に直ちにフィードバックを伝える、②は提出後にワークシート評価表と課題レポート評価表に基づいて評価し、評価結果を個別にフィードバックする										
オフィスアワー	オフィスアワー随時に対応しますが、事前にメールで連絡し日程調整することを推奨する。										
備考	※実務経験のある教員：片山(保健師・看護師)岡田(保健師・看護師)										

在宅看護学演習 (Seminar in Home Care Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	●片山 陽子 (KATAYAMA Yoko) 岡田 麻里 (OKADA Mari)										
授業の目的	在宅療養者と家族への支援、主体的に生きるための意思決定支援に関して、文献検討をシステムティックに実施しながら学生の臨床疑問に基づき探究課題を深め、研究課題への焦点化を行う。研究課題については、その背景と意義を整理し、研究課題に関連するキーワードを設定して概念分析を実施し、研究方法論の検討を行い、一連の研究方法を理解、修得しながら研究計画を設定する。										
到達目標	①臨床疑問から研究疑問を明確化し説明できる。 ②文献検討、統合レビューを実施し、研究課題を明確化し説明できる。 ③研究課題を探究するに適した方法論について、基盤理論を理解した上で選択できる。 ④研究課題における臨床的意義、学術的意義を考究できる。 ⑤研究計画について妥当性が高い設計が行える。 ⑥主体的学修を継続的に実施し、研究計画書を作成できる。										
授業の進め方	授業はゼミナール形式で実施する。 講義、課題について学生主体でプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して研究課題と学修者としての自己課題を明確化しながら進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～2	ガイダンス・学修課題の設定(片山)【講義・討論】									
	3～5	文献検討、統合レビュー(片山・岡田)【プレゼン・討議】 研究疑問、探究課題の明確化(片山・岡田)【プレゼン・討議】									
	6～8	研究課題、主要概念の明確化(片山・岡田)【プレゼン・討議】 概念分析の方法と実施(片山・岡田)【プレゼン・討議】									
	9 ～13	研究枠組みと設定(片山・岡田)【プレゼン・討議】 研究目的、研究方法の設定(片山・岡田)【プレゼン・討議】 臨床的意義と学術的意義の明確化(片山・岡田)【プレゼン・討議】 全体構想とRQのサブストラクション(片山・岡田)【プレゼン・討議】									
	14・15	研究計画の作成(片山・岡田)【プレゼン・討議】									
教科書	テキストは適宜、提示する。										
参考書・参考資料等	文献資料等は適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	・研究方法論で修得した知識を復習し、自己学習達成度と課題を明確化し、継続的に取り組む。 ・選択する研究方法論に関する基盤理論について主体的に学修する。										
他の授業との関連	本授業は、在宅看護学特論、研究方法論を基盤に発展させた授業科目である。 本授業を基に特別研究を展開する。										
成績評価方法・基準・フィードバック	討議への参加度・プレゼンテーション内容(70%)、レポート課題の成果(30%)、 評価基準:論理的思考力、課題探究力、説明力 フィードバック:評価の確認、一定期間を設けて対応する。										
オフィスアワー	事前にメール等でアポイントを取った上で、日程調整し対応する。										
備考	* 実務経験のある教員:片山(保健師・看護師)、岡田(保健師・看護師)										

精神保健看護学特論 (Mental Health Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	則包 和也 (NORIKANE Kazuya)、土岐 弘美 (TOKI Hiromi)、多田羅 光美 (TATARA Terumi)										
授業の目的	人間の心を幅広い視点で捉えることから、人間と精神疾患の関係性を考察し、人間が営む生活において精神疾患がもたらす影響を深く理解する。さらに、研究テーマに関連したプレゼンテーションを段階的に行い、研究テーマの共有と発表スキルの基礎習得、先行研究の紹介とレビュー、先行研究の論点整理、研究方法の説明、そして総合発表を通して、自身の研究を論理的に構築し他者へ伝える力を養う。また、人間の認知や感情への着目によって、認知行動療法の理論を活用した効果的な援助方法を工夫する姿勢を養う。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の体質、資質や環境が精神におよぼす影響について、多角的な視点で説明することができる。 ・認知行動療法の理論を理解し、対象者に対する様々な技法を修得できる。 ・研究テーマを簡潔かつ論理的に共有し、発表スキルの基礎を身につけることができる。 ・精神保健看護に関する課題を抽出し、明確に表現することができる。 										
授業の進め方	講義だけではなく、ディスカッションや発表を交えながら進めていく。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス(全教員)									
	2	人間の心と精神疾患1: 精神を病むということ(則包)【講義】									
	3	人間の心と精神疾患2: 精神疾患と社会(則包)【講義】									
	4	人間の心と精神疾患に関する文献検討と発表(則包)【講義】									
	5	研究テーマに関連した発表①(研究テーマの共有と発表スキルの基礎)(全教員)【発表・討議】									
	6	研究テーマに関連した発表②(先行研究の紹介)(全教員)【発表・討議】									
	7	研究テーマに関連した発表③(先行研究レビュー)(全教員)【発表・討議】									
	8	研究テーマに関連した発表④(先行研究の論点整理)(全教員)【発表・討議】									
	9	研究テーマに関連した発表⑤(研究方法の説明)(全教員)【発表・討議】									
	10	研究テーマに関連した発表⑥(総合発表)(全教員)【発表・討議】									
	11	認知行動療法の概要(則包)【講義】									
	12	認知行動療法の活用(則包)【講義】									
	13	認知行動療法を用いた介入(客観的視点と書くことに着目する)(則包)【講義】									
	14	認知行動療法を用いた介入に関する文献検討と発表(則包)【発表・討議】									
	15	まとめ:課題の抽出と明確化(則包)【講義・討議】									
教科書	使用しない。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	講義内容に関連した資料によって、事前学習を行うこと。学習後は、レポート作成によって復習する。										
他の授業との関連	精神保健看護学演習、看護学特別研究と関連する。										
成績評価方法・基準・フィードバック	討議への参加(態度、貢献度)(30%)、プレゼンテーション(内容、説明の理解しやすさ、パワーポイントの見やすさ、質疑応答の内容、分量等)(30%)、レポート(内容、文字数、形式の充足等)40%で評価する。最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。										
オフィスアワー	適宜対応するが、事前にメール等での連絡が必要。										
備考	* 実務経験のある教員 則包(看護師)、土岐(看護師)、多田羅(看護師)										

精神保健看護学演習 (Seminar in Mental Health Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	則包 和也(NORIKANE Kazuya)、土岐 弘美(TOKI Hiromi)、多田羅 光美(TATARA Terumi)										
授業の目的	精神看護に関連した課題や関心のある事象について、文献検討を繰り返しながら、さらなる問題の明確化と研究課題の絞り込み、研究課題の意義と背景、目的や研究方法、および、対象者の設定を検討し、プレゼンテーションと討議を重ねて、研究計画書を作成する過程を学ぶ。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い文献検討によって、意義のある研究課題を導き出すことができる。 研究課題に適した研究方法を選択するとともに、倫理的課題についても十分な配慮をすることができる。 妥当性と実効性のある研究計画書を作成できる。 										
授業の進め方	文献を検討した内容を資料として整理し、口頭発表とディスカッションを実施しながら進めていく。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス(全教員)									
	2	文献検討1: 研究の考案と問題の抽出(全教員)【演習】									
	3	文献検討2: 抽出した問題の分類(全教員)【演習】									
	4	文献のクリティークと要約(全教員)【演習】									
	5	文献検討の発表(全教員)【演習】									
	6	研究課題の明確化(全教員)【演習】									
	7	研究課題の絞り込み(全教員)【演習】									
	8	研究課題の背景と意義(全教員)【演習】									
	9	概念枠組みの設定(全教員)【演習】									
	10	研究目的の設定(全教員)【演習】									
	11	研究方法の概要(全教員)【演習】									
	12	研究方法の検討(全教員)【演習】									
	13	研究における倫理的課題1: 対象者について(全教員)【演習】									
	14	研究における倫理的課題2: 研究方法について(全教員)【演習】									
	15	研究計画書の作成 (全教員)【演習】									
教科書	適宜紹介する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習: 講義内容に関連した書籍等を読み、事前学習を行うこと。 事後学習: 課題レポートの作成によって自分の考えを整理しまとめること。										
他の授業との関連	精神保健看護学特論、看護学特別研究と関連する。										
成績評価方法・基準・フィードバック	文献検討の内容(まとめ方、的確な要約等)30%、研究計画書の作成過程(継続する力、教員とのコミュニケーション、態度等)30%、研究計画書の内容(40%)で評価する。 最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。										
オフィスアワー	適宜対応するが、事前にメール等での連絡が必要。										
備考	* 実務経験のある教員 則包(看護師)、土岐(看護師)、多田羅(看護師)										

臨床実践看護学特論(Clinical Nursing Practice)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●近藤真紀子(KONDO Makiko)、岩本真紀(IWAMOTO Maki)、森田 公美子(MORITA Kumiko) 岡西 幸恵(OKANISHI Sachie)										
授業の目的	看護実践の基盤を支える理論について学び、理論の臨床実践看護学への活用について理解を深める。										
到達目標	①理論と実践と研究の関連性について理解できる。 ②理論について説明できる。 ③看護実践の基盤を支える諸理論、およびそれらの理論の実践への活用方法について説明できる。 ④臨床実践看護学における理論の新たな生成について説明できる。										
授業の進め方	学生のプレゼンテーションおよびディスカッションを中心に、授業を進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	理論と実践と研究の関連(近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	2	理論とは(近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	3	全人的理解とQOL(近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	4-5	危機理論のと看護実践(近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	6-7	セルフケア理論と看護実践(近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	8-9	トランスセオレティカルモデルと看護実践(近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	10-11	病みの軌跡と看護実践(近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	12-13	グリーフワークと看護実践(近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	14-15	トランスパーソナルケアリングと看護実践(近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
教科書	講義の中で紹介する。										
参考書・参考資料等	講義の中で紹介する。										
事前学習・事後学習	プレゼンテーションの準備をしっかりと行うとともに、講義後は、授業での学びがこれまでの看護実践をどのように変えるのかについて考察する。										
他の授業との関連	臨床看護学演習、特別研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	プレゼンテーションの内容(50%)、ディスカッションへの貢献(20%)、最終レポート(30%)によって評価する。フィードバックは、プレゼンテーションに対して講義の中で行う。										
オフィスアワー	在室時は適宜対応する。不在時は、メールに連絡してほしい。										
備考	※実務経験のある教員:近藤(看護師)岩本(看護師)森田(看護師)岡西(看護師)										

臨床実践看護学演習 (Seminar in Clinical Nursing Practice)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義, 演習
担当教員	●近藤真紀子(KONDO Makiko)、岩本真紀(IWAMOTO Maki)、森田 公美子(MORITA Kumiko) 岡西 幸恵(OKANISHI Sachie)										
授業の目的	これまでの看護実践の中で経験した未解決の問いを、理論を用いて分析することにより、新たな知の発見につなげる。併せて、臨床実践に関する国内外の原著論文を講読して、臨床看護の研究水準と今後の自己の研究課題を明らかにするとともに、用いられている研究方法について探求する。										
到達目標	①理論を用いて、事例分析できる。 ②学術論文をクリティークし、文献レビューを総括できる。 ③関心のある研究手法を選択し、哲学的基盤を含む方法論について説明できる。										
授業の進め方	院生の関心や臨床での経験をもとに、事例分析・文献レビューを行うことで、新たな普遍的な知の珠出の方法を学ぶ。加えて、修士論文の作成を視野に入れ、修論で用いる研究方法論についての理解を深める。担当教員は、研究者としての経験と実績に基づき、院生の学びが深まるよう、助言・指導を行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1-5	理論を用いた事例分析 (近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	6-10	学術論文のクリティーク(近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	10-11	研究方法論(近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
	15	総括(近藤・岩本・森田・岡西)【講義・演習】									
教科書	講義の中で紹介する										
参考書・参考資料等	講義の中で紹介する。										
事前学習・事後学習	事例分析については、臨床実践看護学特論での学びを活用する。 文献のクリティークと研究方法論については、各自の修士論文のテーマを視野に入れながら実施する。										
他の授業との関連	臨床実践看護学特論、特別研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	プレゼンテーションの内容(50%)、ディスカッションへの貢献(20%)、最終レポート(30%)で評価する。プレゼンテーションに対して、その都度、フィードバックする。										
オフィスアワー	随時、対応する。										
備考	※実務経験のある教員:近藤(看護師)岩本(看護師)森田(看護師)岡西(看護師)										

老年看護学特論 (Gerontological Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●竹内 千夏 (TAKEUCHI Chinatsu)										
授業の目的	高齢者とその家族を全人的に理解し、Quality of lifeを高める看護実践を支持する理論的基盤について探求する。さらに、老年看護学の動向や今日的課題を分析・考察する。これらの学修を通じて、高齢者とその家族のQuality of lifeを高める看護について探求する能力を修得する。										
到達目標	① 高齢者理解について、概念・理論を用いて説明できる。 ② Quality of lifeを高める看護実践の基盤になる理論について説明できる。 ③ 認知症高齢者の看護について、概念・理論を用いて説明できる。 ④ 老年看護学の動向や今日的課題について説明できる。 ⑤ 求められる老年看護の役割について考察できる。										
授業の進め方	講義および課題についてのプレゼンテーションとディスカッションを行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス、エイジング(竹内)【講義】									
	2	シームレスケア(竹内)【講義・演習】									
	3	心理・社会的発達理論(竹内)【講義・演習】									
	4	高齢者のQuality of life、生きがい(竹内)【講義・演習】									
	5	エンパワーメントモデル、ストレングスモデル(竹内)【講義・演習】									
	6	ICF生活機能モデル(竹内)【講義・演習】									
	7	高齢者総合機能評価(竹内)【講義・演習】									
	8	認知症高齢者の医療・看護の動向(竹内)【演習】									
	9	認知症高齢者ケアモデル(竹内)【講義・演習】									
	10	アクティビティケア(竹内)【講義・演習】									
	11	老年看護における倫理的課題・意思決定支援(竹内)【演習】									
	12	エンドオブライフケア(竹内)【講義・演習】									
	13	老年看護学教育・研究・実践の動向と今日的課題①(竹内)【講義】									
	14	老年看護学教育・研究・実践の動向と今日的課題②(竹内)【演習】									
	15	老年看護の役割(病院・施設)(竹内)【演習】									
教科書	適宜紹介する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	事前に課題についてのプレゼンテーションの準備をする。事後に学習した理論を実践に適用し有効性を検証する。										
他の授業との関連	老年看護学演習につながる科目である。										
成績評価方法・基準・フィードバック	到達目標の達成状況をプレゼンテーションの内容(25%)、ディスカッションへの参加度(25%)、課題レポート(50%)により評価する。評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に説明する。										
オフィスアワー	研究室に連絡してください。その際、時間調整します。										
備考	授業内容は、学生の状況により調整します。 * 実務経験のある教員 竹内(看護師)										

老年看護学演習 (Seminar in Gerontological Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	●竹内 千夏 (TAKEUCHI Chinatsu)										
授業の目的	学生の関心領域に関する文献検討を行い研究の動向を把握すると共に、プレゼンテーション及びディスカッションを行い研究課題と研究の意義を明確化する。また、研究課題に適した研究方法や倫理的配慮について検討し、研究計画書を作成する。このプロセスを通じて、研究能力を養う。										
到達目標	①関心領域に関する文献検討の結果を説明できる。 ②研究課題および研究の意義を明確化し、説明できる。 ③研究課題に適した研究方法について説明できる。 ④研究計画書を作成できる。										
授業の進め方	毎回、課題についてのプレゼンテーションとディスカッションを行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	関心領域の文献検討①(竹内)【演習】									
	2	関心領域の文献検討②(竹内)【演習】									
	3	関心領域の文献検討③(竹内)【演習】									
	4	関心領域の文献検討④(竹内)【演習】									
	5	研究課題の明確化①(竹内)【演習】									
	6	研究課題の明確化②(竹内)【演習】									
	7	研究課題の明確化③(竹内)【演習】									
	8	研究課題に適した研究方法の検討①(竹内)【演習】									
	9	研究課題に適した研究方法の検討②(竹内)【演習】									
	10	研究課題に適した研究方法の検討③(竹内)【演習】									
	11	研究課題に適した研究方法の検討④(竹内)【演習】									
	12	研究計画書の作成①(竹内)【演習】									
	13	研究計画書の作成②(竹内)【演習】									
	14	研究計画書の作成③(竹内)【演習】									
	15	研究計画書の作成④(竹内)【演習】									
教科書	適宜紹介する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	事前に課題についてのプレゼンテーションの準備をする。										
他の授業との関連	看護学特別研究につながる科目である。										
成績評価方法・基準・フィードバック	到達目標の達成状況をプレゼンテーションの内容(50%)、ディスカッションへの参加度(50%)により評価する。評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に説明する。										
オフィスアワー	研究室に連絡してください。その際、時間調整します。										
備考	授業スケジュールは、学生の状況により調整します。 * 実務経験のある教員 竹内(看護師)										

ウィメンズヘルス看護学特論 (Women's Health Nursing)											
必修・選択の区別	選択 必修(助産学)	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●植村 裕子 (UEMURA Yuko)ほか										
授業の目的	女性の生涯にわたる健康を保持増進するための援助や支援方法に関する理論やモデルをもとに、多面的な視点から考察する。ウィメンズヘルス領域において、科学的根拠に基づいた論理的思考ができ、課題を解決する方法としての研究への取組意欲を高めることができる。										
到達目標	①ウィメンズヘルスに関する理論やモデルが説明できる ②研究のエビデンスレベルをもとに、有用な研究を用いて自らの考えを述べることができる。 ③研究論文を読むための基礎的な知識が修得できる。 ④科学論文を批判的講読するためのスキルが修得できる。 ⑤自らの考えや疑問は根拠をもとに述べることができ、他の学生および教員と討論できる。										
授業の進め方	9～15回は担当教員のゼミに分かれます。担当教員とともに学生は、提示された文献を読み、研究目的、研究デザイン、分析方法や結果の解釈などについて学修をすすめる。授業では、研究論文のクリティークの方法を学び、教員と討論しながら研究をより深く解釈できるようにする。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～4	ウィメンズヘルスに関する理論とモデル概説(植村)【講義】 ・女性中心のケア/家族中心のケア ・助産師主導継続ケア ・妊娠期～育児期における愛着形成、母親役割獲得に関連する理論									
	5～8	ウィメンズヘルスケアに関する論文レビュー(植村)【演習】 ・興味ある論文レビューと発表・討論									
	9～13	ウィメンズヘルスに関連する課題を抽出(担当教員)【演習】 ・CQの設定と論文レビューと現時点での結論									
	14～15	総括(担当教員)【演習】 現時点での課題研究テーマ									
教科書	指定しない。										
参考書・参考資料等	クリティークの方法、質的研究法や量的研究法、混合研究法の解釈に有用な図書は、図書館にも多数ありますので、自分が理解しやすいと思われるものを参考にする。										
事前学習・事後学習	【事前学習】教員から提示された論文を授業開始前までに読んでおく。 【事後学習】毎回の授業で講読した論文について、知らなかった研究手法や専門用語などについて調べ、自らの言葉で説明できるようにしておく。										
他の授業との関連	ウィメンズヘルス看護学演習と連動している。また、課題研究Ⅰの前提になる科目である。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】各授業で学生に対して投げかけた課題に関しては、その時間内にフィードバックする。 【成績評価・基準】授業の目標達成状況をみるルーブリック評価表をもとに形成評価と総括評価から、総合的に評価する。 形成評価80%：課題発表等のルーブリック評価表(課題への取り組み、発表内容、発表姿勢)を評価する。総括評価20%：課題研究テーマの評価基準は課題の焦点化、課題に関する先行研究の分析とする。 *原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられない。										
オフィスアワー	質問がある場合は、事前に担当教員にメールで連絡する。 全体的なことに関しては、植村(研究室31)が対応する。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	知識や理論に基づいて考える力と主体的に学習する姿勢を培い、意見交換を通して自分の考えを整理・表現し、思考が創造的に発展することを期待する。 実務経験のある教員：植村(助産師)										

ウィメンズヘルス看護学演習 (Seminar in Woman's Health Nursing)											
必修・選択の区別	選択 必修(助産学)	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	●植村 裕子 (UEMURA Yuko) ほか										
授業の目的	自らが取り組むMidwiferyとWomen's Healthに関連する研究テーマを明確にできる。研究デザインと研究手法、研究のまとめ方についての理解を深め、自らの研究において活用できる基盤をつくる。										
到達目標	①MidwiferyとWomen's Healthに関連した自らの研究課題につながるテーマを考察できる。 ②研究デザインによって、研究手法が異なることが説明できる。 ③科学論文が批判的に講読できる。 ④自らの考えや疑問は根拠をもとに述べることができ、他の学生および教員と討論できる。										
授業の進め方	学生は、課題研究テーマに関連する論文を検索し、文献を用意します。事前にその文献を読み、研究目的、研究デザイン、分析方法や結果などについてクリティークする。担当教員と討論しながら、課題研究テーマを掘り下げる。この授業は課題研究Ⅰと連動して行う予定である。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～2	クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンへ(担当教員)【講義・演習】 ・クリニカルクエスチョン(ウィメンズヘルス特論のときに抽出したCQ)に対する答え									
	3～6	リサーチクエスチョンを明確にするための論文レビュー(担当教員)【演習】 ・発表と討論 ・リサーチクエスチョン、研究課題テーマ									
	7～13	研究課題テーマに関する論文をレビュー(担当教員)【演習】 ・発表と討論									
	14～15	総括(担当教員)【演習】 ・研究課題テーマについてレビューした論文をもとに説明									
教科書	指定しない。										
参考書・参考資料等	質的研究法や量的研究法、混合研究法の解釈に有用な図書は、図書館にも多数ありますので、自分が理解しやすいと思われるものを参考にする。										
事前学習・事後学習	【事前学習】ウィメンズヘルス看護学特論で検討した論文をもとに課題研究テーマに関連する論文をクリティークし、プレゼンの準備をする。 【事後学習】毎回の授業で講読した論文について、知らなかった研究手法や専門用語などについて調べ、自らの言葉で説明できるようにする。										
他の授業との関連	ウィメンズヘルス看護学特論に続く科目である。また、課題研究Ⅰと連動して行う。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】各授業で学生に対して投げかけた課題に関しては、その時間内にフィードバックする。 【成績評価・基準】授業の目標達成状況をみるルーブリック評価表をもとに形成評価と総括評価から、総合的に評価する。 形成評価80%: 課題発表等のルーブリック評価表(課題への取り組み、発表内容)をもとに評価する。総括評価20%: 文献レビューの評価基準は文献の収集と整理、精読、分析と評価とする。 * 原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられない。										
オフィスアワー	質問がある場合は、事前に担当教員にメールで連絡する。 全体的なことに関しては、植村(研究室31)が対応する。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	知識や理論に基づいて考える力と主体的に学習する姿勢を培い、意見交換を通して自分の考えを整理・表現し、思考が創造的に発展することを期待する。 実務経験のある教員: 植村(助産師)										

小児看護学特論 (Child Health Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●枝川 千鶴子 (EDAGAWA Chizuko)										
授業の目的	子どもの成長・発達と健康及び家族の健康支援に関連した、理論・概念、関連領域の知識や研究知見について学習し、子どもの健全な成長・発達を保障する看護実践方法について探究する。										
到達目標	①小児期各期の成長・発達について、主要な発達理論を用いて説明できる。 ②あらゆる健康レベルの子どもとその家族の健康課題について考え、発達を支える支援方法について説明できる。 ③現代の子どもと家族がおかれている社会環境について、支援者の立場からその実態を捉え、自分の考えを述べるができる。										
授業の進め方	講義及び課題についてのプレゼンテーションと討議により進めます。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	子どもの権利と看護 (枝川)【講義】									
	2	発達理論と看護への応用1									
	3	発達理論と看護への応用2									
	4	子どもの発達と支援(生活行動1)									
	5	子どもの発達と支援(生活行動2)									
	6	子どもの発達と支援(認知・思考・ことば)									
	7	子どもの発達と支援(情動)									
	8	子どもの発達と支援(社会性)									
	9	子どもの発達と支援(運動機能)									
	10	病気や障害のある子どもへの支援									
	11	病気や障害のある子どもと家族の健康課題と支援1									
	12	病気や障害のある子どもと家族の健康課題と支援2									
	13	現代社会における子どもが育つ社会環境の実態と支援施策									
	14	子どもと家族の健康課題と他職種連携									
	15	子どもと家族の包括的アセスメントと支援の検討									
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	適宜、紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習として、小児看護学の実践場面での現象について、疑問や気づき等を言語化しておく。さらに、小児看護学に関連した発達理論について調べておく。 プレゼンテーションや討論によって得られた課題に関し、事後学習を行う。										
他の授業との関連	ここでの学びを小児看護学演習につなげる。										
成績評価方法・基準・フィードバック	プレゼンテーション30%、討議内容30%、課題レポート40%で評価する。 フィードバックは、講義中のディスカッションの中で行う。										
オフィスアワー	メールアドレスを開示し、常に連絡調整ができるようにする。										
備考	実務経験のある教員 枝川(看護師)										

小児看護学演習 (Seminar in Child Health Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	●枝川 千鶴子 (EDAGAWA Chizuko)										
授業の目的	子どもの成長・発達と健康及び家族の健康に関する看護実践方法の開発に向けて、学生の関心領域の文献クリティークを行い、小児看護学における今日の研究課題について探求する。さらに自己の研究課題の明確化、その意義、適切な研究方法の選択について理解を深め、研究計画に活かす。										
到達目標	①学生の関心領域の文献クリティークができる。 ②関心領域の看護実践における今日課題について述べるができる。 ③研究の動向を見極め、自己の研究課題の絞り込みができる。 ④適切な研究方法の選択ができる。 ⑤子どもが対象の研究における倫理的な課題に気づき、具体的な対応について述べるができる。 ⑥研究に取り組むにあたっての自己学習課題について述べるができる。										
授業の進め方	講義及び課題についてプレゼンテーションと討議を行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス・関連文献の紹介 (枝川)【演習】									
	2	子ども対象の研究における倫理的課題の検討と対応									
	3	子どもと家族を対象とする研究の動向									
	4	関心領域の文献検討1									
	5	関心領域の文献検討2									
	6	関心領域の文献検討3									
	7	関心領域の文献検討4									
	8	研究課題の明確化1									
	9	研究課題の明確化2									
	10	研究課題における的確な研究手法の検討1									
	11	研究課題における的確な研究手法の検討1									
	12	研究計画書作成1									
	13	研究計画書作成2									
	14	研究計画書作成3									
	15										
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習: 自分の興味関心のある看護現象について、考えを整理し表現できるようにしておく。 事後学習: 演習で明らかになった研究課題に取り組むにあたり、見えてきた自己の課題と向き合い、課題達成にむけて主体的に学習をすすめる。										
他の授業との関連	小児看護学特論、看護学特別研究と関連している。										
成績評価方法・基準・フィードバック	プレゼンテーション30%、討議内容30%、課題レポート40%で評価する。 フィードバックは講義中のディスカッションの中で行う。										
オフィスアワー	メールアドレスを開示し、常に連絡調整ができるようにする。										
備考	子どもの生きる力を支援できる看護を開発していこうとする意識を持つこと、主体的に研究課題について探求していくことを期待する。 実務経験のある教員 枝川(看護師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)												
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習	
担当教員	●片山 陽子 (KATAYAMA Yoko)											
授業の目的	在宅看護学特論、演習で学修した在宅看護学領域における知見や自らの問題意識を基に、学生自身の看護実践経験と学際的アプローチを統合して研究過程を実施し修士論文を完成させる。本プロセスへの取り組みを通して、臨床において研究的アプローチができる基礎的能力を高める。											
到達目標	①文献レビューと研究方法適用に関する検討を重ね、RQを明確化する。 ②研究プロセスをととして、科学研究に必要な倫理を学び、その姿勢を獲得し言語化できる。 ③論文の作成過程を指導教員の支援を得ながら実施できる。 ④作成した論文を発表、説明できる(口頭発表、学位審査)。 ⑤作成論文を助言を受けて修正し、完成させる。											
授業の進め方	授業は、学生主体で討議やプレゼンテーションなどを重ねて、研究課題を論考する能力が育成できるようにすすめる。また、研究の進捗状況に応じてゼミナール形式で討議しながら進める。											
	回	内容・教員・形式等										
授業スケジュール	1	ガイダンス										
	2~4	文献検討や資料分析を基に統合レビューに基づき、研究課題の再確認と明確化										
	5~10	研究計画の修正と研究実施計画の確認										
	11~45	研究の展開:ゼミでの検討会や中間報告会での発表をとおした実施評価と継続的な計画遂行										
	46~60	研究論文の執筆:研究実施展開と成果と修士論文にまとめる										
	61~75	研究成果を公表し、評価と修正への吟味を経て修士論文を完成させる										
教科書	特に指定はなし											
参考書・参考資料等	授業において適宜指定する。											
事前学習・事後学習	・在宅看護学特論・演習、研究方法論の学修内容を活用するとともに、臨床疑問にそった主体的学修を継続的に進める。 ・事後には、作成した修士論文を専門誌に投稿する計画を立案する。											
他の授業との関連	在宅看護学特論・演習、看護研究方法論を基盤とする。											
成績評価方法・基準・フィードバック	成績評価:研究実施・論文執筆プロセスの取り組み(50%)、修士論文の完成度と審査過程への取り組み(50%)を総合的に評価する。 評価基準:課題発見力、論理的思考力、論旨の一貫した記述、的確な文章表現 フィードバック:論文作成過程において適宜、逐次の評価と課題・課題方略案を提示する。論文完成・成果発表後に成果評価を実施し個別にフィードバックする。											
オフィスアワー	事前にメール等でアポイントをとり、日程調整して対応する。											
備考	※実務経験のある教員:片山(看護師)											

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	●近藤 真紀子 (KONDO Makiko)										
授業の目的	病いをもって生きる患者とその家族に対する看護実践の充実を図ることを目的に、学生個々の研究テーマに沿って、修士論文を完成させる。修士論文の全過程を経験することにより、研究者としての基礎的能力を高める。										
到達目標	教員の指導を得ながら、下記のステップを達成する。 ①臨床の現象から研究テーマを見つけ出し、研究目的を明確にする。 ②研究テーマ関連する文献レビューを行い、研究計画書を立案する。 ③研究倫理申請書類を作成し、審査を受ける。 ④研究フィールドを確保する。 ⑤データ収集を行う。 ⑥データ分析を行う。 ⑦結果を考察し、論文を作成する。 ⑧口頭発表を行う ⑩学位審査を受ける。										
授業の進め方	到達目標で示したステップを滞りなく進むことができるよう、院生各自がタイムテーブルを作成し、自主的に研究を進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1-5	テーマの選定と研究目的の明確化									
	6-15	文献レビュー・研究計画書の立案									
	16-20	研究倫理申請書類の作成・研究倫理審査									
	21-25	研究フィールドの確保									
	26-35	データ収集									
	36-45	データ分析									
	46-60	結果の考察・論文作成									
	61-70	口頭発表									
	71-75	学位審査									
教科書	随時、提示する。										
参考書・参考資料等	随時、提示する。										
事前学習・事後学習	修士論文作成に当たり、関連文献のレビューや研究方法論に関する自己学習を積極的に進める。										
他の授業との関連	臨床実践看護学特論、臨床実践看護学演習										
成績評価方法・基準・フィードバック	論文作成への取り組み状況(50%)、論文の完成度(50%) フィードバックについては、指導教員が、論文の作成過程でその都度行う。また、研究計画書の審査・最終学位審査については、主査・副査が論文の完成度について、フィードバックを行う。										
オフィスアワー	随時、対応する。										
備考	※実務経験のある教員：近藤(看護師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	講義・プレゼン・討議
担当教員	●辻 よしみ (TSUJI Yoshimi)										
授業の目的	公衆衛生看護領域における研究課題について、研究のプロセスに沿って修士論文を作成し、公衆衛生看護の実践に寄与できる研究的能力を養う。										
到達目標	① 公衆衛生看護学領域における研究課題に関連した文献検討及び研究方法の検討ができる。 ② 課題に沿った研究計画書の作成、データ収集、分析に取り組める。 ③ 研究プロセスを通して倫理的思考や姿勢について獲得できる。 ④ 研究目的に沿って考察を深め修士論文を作成できる。 ⑤ プレゼンテーションについて学び実施できる。										
授業の進め方	学生主体で、プレゼンテーションを中心に実施する。研究の進捗状況に応じて討議・検討を行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～5 6～10 11～30 31～50 51～75	研究課題の明確化 研究計画書の作成 データ収集・分析 論文作成 論文発表									
教科書	随時、紹介する。										
参考書・参考資料等	随時、紹介する。										
事前学習・事後学習	自己の探求したい課題について文献検索、収集を実施する。										
他の授業との関連	看護学特論と連動し実施する。関連科目：質的研究方法論、量的研究方法論										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価を受けられない。 評価基準：文献レビューの実施・リサーチクエスションの明確化 (20%)、研究方法の検討・研究計画立案 (20%)、研究計画実施・データ収集 (20%)、分析・考察 (20%)、修士論文審査結果に至る過程 (20%)、全体を通じて学習態度、知識、論理的思考を評価する。 フィードバック：各授業の終わりに課題を整理するとともに疑問点について対応する。 最終講義において全過程を振り返り、疑問等に応える。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	講義・指導については、進捗状況に応じて適宜、調整する。 * 実務経験のある教員 辻 (保健師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	●筒井 邦彦 (TSUTSUI Kunihiko)										
授業の目的	基礎看護学領域における、例えば機器を用いた量的研究課題について、看護実践に寄与できる知見を探求し、修士論文を作成することを通して、基礎研究能力を養う。										
到達目標	① 自己の研究課題を見出し、文献検討を通して学術的意義を説明できる。 ② 研究課題に沿った研究計画書が作成できる。 ③ 研究課題に沿ったデータの収集、解析ができる。 ④ 論理的な研究論文が作成できる。										
授業の進め方	学生主体のプレゼンテーションを行い、討議しながら進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～10	研究課題の明確化、文献レビュー、研究計画書の作成									
	11～40	研究の実施・解析									
	41～60	修士論文作成									
	61～75	論文の発表と修正									
教科書	指定しない。										
参考書・参考資料等	適時紹介する。										
事前学習・事後学習	事前に課題、テーマに関連した論文を読み、プレゼンテーション、討議の準備を行う。										
他の授業との関連	履修した授業を研究に生かし、論文を完成させていく。										
成績評価方法・基準・フィードバック	文献検討(20%)、プレゼンテーション、討議の内容(20%)、計画書の作成(20%)、研究計画の実施(20%)、論文作成(20%) 毎回、授業終了後には疑問を確認し、フィードバックは次回の授業前に行う。 研究計画書やデータ解析、論文の作成時、適時コメントを口頭や書類に添付しフィードバックする。										
オフィスアワー	随時相談しながら対応。										
備考	実務経験のある教員：筒井(医師)。										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	則包 和也 (NORIKANE Kazuya)										
授業の目的	精神保健看護学演習での学習をさらに深化させ、研究テーマに沿った文献レビュー、研究計画や研究結果を報告しながら、討議を重ねていく。その際、データの集計・分析方法について学びながら、研究の質を高めることを目指す。さらに学会発表や研究会における発表とディスカッションを通して、テーマを探求し、自ら問いを立て続ける姿勢を養い、修士論文の完成を目指していく。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学として意義のある知見を導き出すことができる。 ・妥当性のある研究計画書を作成し、目的達成に必要な研究方法を選択することができる。 ・対象者や研究方法について、適切かつ十分な倫理的配慮を行うことができる。 ・論旨が明確で一貫性のある修士論文を作成することができる。 										
授業の進め方	講義だけではなく、ディスカッションや発表を交えながら進めていく。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス									
	2～3	研究課題の明確化: 要約した文献レビューを深める (則包)【演習】									
	4～8	研究計画書の吟味: 作成した研究計画書をもとに発表を行い、助言を参考にして、内容の検討を行う (則包)【演習】									
	9～45	研究実施: 研究の振興に伴い、進捗状況についての発表を行い、助言を参考にして、研究を進める。また、中間報告会での発表に関する助言を参考にする (則包)【演習】									
	46～68 69～75	修士論文の執筆の継続 (則包)【演習】 修士論文の完成: 研究成果の発表を行い、指導や助言を参考にして最終的に修士論文を完成する (則包)【演習】									
教科書	使用しない。										
参考書・参考資料等	適宜、紹介する。										
事前学習・事後学習	講義内容に関連した資料によって、事前学習を行うこと。学習後は、レポート作成によって復習する。										
他の授業との関連	精神看護学特論、精神保健看護学演習と関連する。										
成績評価方法・基準・フィードバック	討議(内容、論理性)20%、研究遂行能力(計画の遂行度、倫理的配慮の実施程度)20%、修士論文の型式の遵守(30%)、修士論文の内容(30%)で評価する。 最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。										
オフィスアワー	適宜対応するが、事前にメール等で連絡が必要。										
備考	* 実務経験のある教員 則包(看護師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	●比江島 欣慎 (HIEJIMA Yoshimitsu)										
授業の目的	日々蓄積する保健医療関連データを医療の質の向上、医療安全の担保、患者サービスの改善、効果的な保健活動などに活用することが期待されている。本講義では、科学的学術研究の実施を通して、統計学や疫学、データマネジメント、その基礎となる医療や情報の基礎知識を獲得し、地域や施設内に蓄積された各種データを活用し、現場にエビデンスをもたらす人材の育成を目指す。										
到達目標	①問題を可視化し、解決に必要な学術論文を探し、読み、解決に利用できる。 ②問題解決に必要なデータを準備できる。 ③指導教員の指示に従って、科学研究を適切に計画・実行できる。 ④研究データを適切に管理し、指導教員の指示に従って分析できる。 ⑤分析結果を解釈し、問題解決の検討ができる。 ⑥科学研究の一連の工程をまとめ、適切に公表できる。										
授業の進め方	基本的に学生主体のゼミナール形式で進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1 2～10 11～30 31～35 36～50 51～58 59～68 69～75	ガイドランス 研究テーマ設定のための論文の抄読・発表 研究目的設定のための論文の抄読・発表 研究計画書の作成 研究データの収集・管理 研究データの分析 分析結果の考察(必要に応じて論文の抄読・発表) 論文の作成、審査会の準備 (授業スケジュールは進捗状況によって適宜変更する)									
教科書	特になし										
参考書・参考資料等	学生と相談の上適宜決めていく。										
事前学習・事後学習	事前学習: 学生の興味、テーマに合わせて、進捗状況を見ながら教員が適宜指示することをおこなう。 事後学習: 進捗状況を見ながら教員が適宜指示することをおこなう。										
他の授業との関連	これまでの講義・演習や量的研究方法論を基盤とする。										
成績評価方法・基準・フィードバック	①研究実施や論文執筆への取り組み(60%)、②修士論文の完成度と審査への取り組み(40%)を総合的に評価する。 評価内容: 科学研究のプロセスを理解できているか(①,②)、学術的価値の大きさ(②)。 フィードバック: 評価結果の確認期間を設けて対応する。										
オフィスアワー	授業の前後、および研究室(要事前連絡)にて対応する。										
備考	担当教員は医療に関する資格を保持しないため、研究のテーマおよびフィールドを提供できない旨を理解しておくこと。										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	●枝川 千鶴子 (EDAGAWA Chizuko)										
授業の目的	小児看護学領域における自己の研究課題を明確にし、研究プロセスに沿って新たな知見を導き出し、修士論文を完成させる。このプロセスを通して、看護実践に寄与できる基礎的研究能力を習得する。										
到達目標	①文献検討やディスカッションによって研究目的と意義を明確にすることができる。 ②研究目的・目標を達成するための研究方法を選択し、研究計画書を作成することができる。 ③倫理的配慮を行いながら、データ収集・分析ができる。 ④導き出した結果を考察し、一貫性のある論文を作成することができる。 ⑤研究成果を発表し、ディスカッションによってさらに精度を高めた修士論文を完成させることができる。										
授業の進め方	学生主体のプレゼンテーションおよび討議によって進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～5 6～10 11～15 16～35 36～50 51～70 71～75	研究目的・意義の明確化 研究計画書を作成 倫理審査申請書を作成し、倫理審査を受ける 研究計画書に沿ってデータ収集・分析 中間発表会で発表・ディスカッションを通して、研究の評価・修正 論文作成 論文発表・修正を行い、論文を完成させる。									
教科書	指定しない										
参考書・参考資料等	随時紹介する										
事前学習・事後学習	事前学習：小児看護学特論・小児看護学演習での学びを活かし、研究課題をプレゼンテーションできるように準備を行う。 事後学習：研究成果を関連学会誌に投稿する準備を行う。										
他の授業との関連	小児看護学特論、小児看護学演習										
成績評価方法・基準・フィードバック	研究実施・論文作成 (60%)、プレゼンテーション・ディスカッション (40%) フィードバックは、毎回のゼミの中で適時行う。										
オフィスアワー	適時、対応する。										
備考	実務経験のある教員：枝川 (看護師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	●小野 美穂 (ONO Miho)										
授業の目的	基盤看護学特論、演習で学修した知見を踏まえ、自らの研究課題の明確化、研究計画を洗練し、計画に基づいて研究を展開する。研究を進める中で生じる疑問や課題を解決するためにディスカッションを重ねながら研究プロセスを踏み、論理一貫性のある修士論文を完成させる。これらのプロセスを通して、研究を遂行する基礎的能力を高め、看護学の質向上に貢献する。										
到達目標	① 研究課題や研究目的を明確化し、自己の研究計画について説明できる。 ② 文献検討の結果をレビューとして記述できる。 ③ データの収集方法、分析方法の妥当性について説明することができる。 ④ 倫理的配慮について記述することができる。 ⑤ 研究目的に沿ったデータ収集・データ分析ができる。 ⑥ 研究目的に沿った結果と妥当な考察が記述できる。 ⑦ 研究遂行の過程で批判的・論理的思考をはたらかせ、討論、プレゼンテーション、論文執筆ができる。 ⑧ 論旨の一貫性ある論文を完成することができる。										
授業の進め方	学生が研究の進捗状況に応じてプレゼンテーションを行い、その内容について討議しながら研究を進めることで研究能力を身につけていく。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス									
	2～10	研究課題と研究計画の確認・再検討(一貫性、方法論、倫理的配慮、追加文献レビュー)									
	11～30	データ収集・整理(データ内容の妥当性、進捗プレゼンテーション)									
	31～35	データ分析(データの質評価、分析結果プレゼンテーション)									
	36～40	結果の要約(図表作成、論理的記述、プレゼンテーション)									
	41～50	考察の検討(解釈の妥当性、看護への示唆、研究の限界、今後の課題、進捗プレゼンテーション、ディスカッション)									
	51～75	論文作成									
教科書	特に指定なし										
参考書・参考資料等	随時、紹介する										
事前学習・事後学習	事前学習: 研究の進捗状況を報告できるよう効果的な資料を準備する。 事後学習: 討論で指摘されたことや質問されたことに対して修正を加えていく。										
他の授業との関連	これまでの授業で学んだ内容を活かして研究課題に取り組む。										
成績評価方法・基準・フィードバック	研究への取り組み姿勢(20%)、討論・プレゼンテーション内容(30%)、論文の完成度(50%) 一定期間を設け評価に対する質問に対応する。										
オフィスアワー	適宜、対応する。(メールによるアポイントメント要)										
備考	※実践経験のある教員: 小野(看護師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	呉 小玉 (Wu Xiaoyu)										
授業の目的	学生の臨床経験や現場の疑問を出発点に、倫理観を大切にしながら研究プロセスを確実に習得できることを目指す。学生自らの研究課題の明確化、研究計画を洗練し、計画に基づいて研究を展開し、その結果に基づき学術論文を作成し公表できるようにする。										
到達目標	① 研究課題や研究目的を明確化し、文献検討を通して国内外を問わず「what's new」を発見し、現象に新たな意味を見出せる。 ② 文献検索から明確された課題に基づき、研究計画を立案することができる。 ③ 立案された計画にそってデータ収集・分析し、その結果と妥当な考察が記述できる。 ④ 研究遂行のプロセスにクリティカルシンキングしたうえで、学術論文を完成することができる。										
授業の進め方	学生が研究のステップに応じてプレゼンテーションを行ってもらい、その内容に応じてディスカッションや討議しながら研究を進める。しっかりと研究のプロセスを段階的に身につけてもらう。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス									
	2~5	研究課題と研究計画の確認・再検討(一貫性、方法論、倫理的配慮、追加文献レビュー)									
	6~10	データ収集・整理(データ内容の妥当性、進捗プレゼンテーション)									
	11~30	データ分析(データの評価、分析結果プレゼンテーション)									
	30~45	結果の要約(図表作成、論理的記述、プレゼンテーション)									
	45~50	考察の検討(解釈の妥当性、看護への示唆、研究の限界、今後の課題、進捗プレゼンテーション、ディスカッション)									
	51~75	論文作成									
教科書	なし										
参考書・参考資料等	適宜紹介する										
事前学習・事後学習	事前学習: 研究の進捗において疑問・思考を含み、報告文を討論材料として準備する。 事後学習: 討論で指摘されたことや質問されたことに対して適切に修正を加え、次に進む。自らの研究を遂行する上で必要となることを常に学習する。										
他の授業との関連	看護理論, 質的看護研究方法論, 量的看護研究方法論, 看護学特論・演習等を基盤とした授業である。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【成績評価方法・基準】 プレゼンテーションの内容(30%), ディスカッション内容(30%), 修士論文作成(40%)基準: 到達目標に照らし合わせて判断する。 * 原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられない。 【フィードバック】 提出されたものはその都度フィードバックを行う。										
オフィスアワー	随時対応する(事前にメールで確認のこと)。 e-mail: u-s@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	※看護実践経験のある教員: 呉(看護師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)												
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習	
担当教員	●植村 裕子(UEMURA Yuko)											
授業の目的	母性看護学および助産学の視点から、女性と家族の生涯にわたる健康に関する課題を明確にし、修士論文を作成し公表できる能力を養う。											
到達目標	①研究課題を明確にし、文献レビューができる。 ②研究計画書が作成できる。 ③研究方法に基づいて、データ収集ができる。 ④データを分析し、修士論文が作成できる。 ⑤研究成果が公表できる。											
授業の進め方	ゼミナール形式											
	回	内容・教員・形式等										
授業スケジュール	1～5	研究課題の明確化、文献レビュー										
	6～15	研究計画書の作成										
	16～35	データ収集・分析										
	36～55	修士論文作成										
	56～75	修士論文の発表・修正										
教科書	特に指定しない。											
参考書・参考資料等	適宜紹介する。											
事前学習・事後学習	事前学習：ゼミナールで研究段階に応じた課題をプレゼンテーションできるように準備する。事後学習：ディスカッションした内容をまとめ、次の課題を見出す。											
他の授業との関連	看護理論、質的研究方法論、量的研究方法論、ウイメンズヘルス看護学特論、ウイメンズ看護学演習と連動している。											
成績評価方法・基準・フィードバック	成績評価方法：プレゼンテーション内容(30%)、ディスカッション内容(30%)、論文作成(40%)。評価基準：到達目標に基づく。フィードバック：ゼミナール時に個別に行う。 原則として、総授業数の3分の2位以上の出席がないければ評価を受けられない。											
オフィスアワー	随時対応する。事前にメールで連絡する。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp											
備考	※実務経験のある教員：植村(助産師)											

看護学特別研究 (Research in Nursing)												
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習	
担当教員	●岩本 真紀 (IWAMOTO Maki)											
授業の目的	がん看護および療養支援看護学領域における研究課題について、看護実践に寄与することができる知見を探求し、修士論文を作成することを通して、基礎的研究能力を養う。											
到達目標	① 自己の研究課題を見出し、文献検討を通して学術的意義を説明できる。 ② 自己の研究課題に沿った研究計画書を作成し、発表できる。 ③ 論理的で一貫性のある修士論文を作成することができる。 ④ 効果的なプレゼンテーションのスキルを学び、研究成果を公表できる。											
授業の進め方	学生主体のプレゼンテーションをもとに、討議を重ねながらすすめる。											
	回	内容・教員・形式等										
授業スケジュール	1	ガイダンス										
	2～5	研究課題の明確化										
	6～10	研究計画書の作成										
	11～40	データ収集および分析										
	41～68	論文作成										
	69～75	研究成果の発表および修正 修士論文の完成および提出										
教科書	随時、紹介する。											
参考書・参考資料等	随時、紹介する。											
事前学習・事後学習	事前にテーマに関連した文献を読み、プレゼンテーション・討議の準備をしておく。											
他の授業との関連	療養支援看護学特論、療養支援看護学演習、質的研究方法論、量的研究方法論などの履修した授業での学びを活かす。											
成績評価方法・基準・フィードバック	研究への取り組み状況 (50%)、修士論文の完成度 (50%) その都度、個別にフィードバックを行う。											
オフィスアワー	随時対応する。											
備考	※実務経験のある教員: 岩本 (看護師)											

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	●岡田 麻里 (OKADA Mari)										
授業の目的	在宅看護学特論、演習で学修した地域看護学・在宅看護学領域における知見や問題意識に基づいて、学生自身の問題意識と探究心に基づいて、地域・在宅看護学領域の学術論文の作成と公表する能力を養うことを目的とする。										
到達目標	①地域・在宅看護学領域における実践的課題について、特論および演習での学びを基に研究課題を明確にし、文献レビュー及び研究方法の検討をおこない、一連の研究過程に取り組むことができる。 ②研究プロセスを通して、当該領域における知識を深め、倫理観をもって自己の考えを言語化できる。 ③論理的、科学的思考を基盤に、自ら支援を得ながら、自己の看護実践の質向上のために論文作成を実施できる。 ④授業や学会発表を通じて、他者とのディスカッションや自己のプレゼンテーションする機会をもち、自己の研究課題を研鑽する。										
授業の進め方	授業は、学生主体による、討議・プレゼンテーションを行う。自己の研究課題と研究目的を明確にし、その背景となる社会情勢、研究の理論的基盤を明確にする。研究の進捗状況を、共有し、討議しながら進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1 2~4 5~10 11~60 61~75	ガイダンス 文献資料・資料を基に概念分析や統合レビューを行い、研究課題を明確にする 研究計画を作成する 研究を開始する：ゼミでの検討、中間報告会での発表、経過の評価・修正、計画の遂行 研究論文を執筆する 研究成果の公表、評価、修正し、修士論文の作成・完成する									
教科書	適宜紹介する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	自己の臨床疑問、研究を進める際の理論的基盤に関する文献や著書を読む。臨床疑問に関する幅広い情報収集をする。										
他の授業との関連	在宅看護学特論・演習、看護研究方法論を基盤にした授業である										
成績評価方法・基準・フィードバック	文献検討・統合レビューの内容検討とリサーチクエスションの明確化(20%)、研究方法論とデザイン等実施に関する検討内容(20%)、研究計画：データ収集・データ分析・考察(30%)、修士論文執筆と審査に至る過程(20%)を総合的に評価する。 評価基準：論理的思考力、課題探究力、説明力										
オフィスアワー	事前にアポイントメントをとり、計画的に実施する。										
備考	※実務経験のある教員：岡田(保健師・看護師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	●土岐 弘美 (TOKI Hiromi)										
授業の目的	メンタルヘルスに健康問題をもつ人とその家族ならびに彼らを取り巻く人々や看護職者のメンタルヘルスに関連した研究課題を探索し、精神保健医療福祉の場において寄与できる知見を探求する。研究のプロセスに沿って、修士論文を作成する中で、基礎的研究能力を養うとともに、研究の質を高めるため、学会発表や研究会における発表を目指す。										
到達目標	①看護学として意義のある知見を導き出すことができる。 ②妥当性のある研究計画書を作成し、目的達成に必要な研究方法を選択することができる。 ③法令等に従い、所定の手続き・対策を講じた倫理的配慮ができる。 ④論旨が明確で一貫性がある修士論文を作成することができる。										
授業の進め方	講義と演習で進める。 学生によるプレゼンテーションを中心に進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1 2-3 4-8 9-45 46-68 69-75	I. ガイダンス II. 研究課題の明確化 1) 要約した文献レビューをさらに深める。 III. 研究計画書作成 2) 研究計画書案について、教員の指導を受けながら、また他院生参加のもとでプレゼンテーションを行いながら研究計画書を完成させる。 IV. 研究実施 3) 研究の進行に伴い、進捗状況を教員と他院生にプレゼンテーションを行い、随時、教員の指導を受けながら研究を進める。その際、中間報告会で発表を行い、評価修正する。 V. 修士論文執筆 4) 研究成果を修士論文にまとめる。 VI. 修士論文の完成 5) 研究成果の発表を行い批評を受け、研究の精度を高めた後に、最終的に修士論文を完成させ提出する。									
教科書	随時、提示する。										
参考書・参考資料等	随時、指導教員が提示する。										
事前学習・事後学習	研究が計画通り進むように、十分な事前学習をすること。										
他の授業との関連	精神保健看護学特論と精神保健看護学演習による学修成果を発展させ、看護学特別研究では修士論文を完成させる。										
成績評価方法・基準・フィードバック	討議の内容(10%)、研究計画書の作成過程と内容(20%)、研究遂行能力(30%)、修士論文の新規性と独創性等(40%)を総合して評価する。										
オフィスアワー	随時対応します(事前にメールで日程調整をしてください)。										
備考	* 実務経験のある教員 土岐(看護師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	●森田 公美子 (MORITA Kumiko)										
授業の目的	療養支援看護学領域の看護実践やそれに取り組む看護職の思考・行動などから抽出された研究課題を、修士論文の作成により系統的に探究し、療養支援看護学の発展に貢献する成果を得るための能力を養う。										
到達目標	①文献検討を通して研究課題に対する学術的意義を説明できる。 ②研究課題に即した研究計画書を作成できる。 ③研究計画に沿ってデータ分析および分析ができる。 ④研究目的に即した研究結果を導き出し、論理性・整合性・一貫性をもった論文を作成できる。 ⑤研究過程において生じやすい倫理的問題とその対処を説明できる。										
授業の進め方	学生主体のプレゼンテーションをもとに、討論を重ねながら進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~5 6~10 11~45 46~70 71~75	研究課題の明確化 研究計画書の作成 データ収集・分析 論文作成 研究成果の発表、論文の提出									
教科書	指定しない。										
参考書・参考資料等	適時紹介する。										
事前学習・事後学習	研究課題に関連する文献や研究手法に関する文献を購読し、プレゼンテーションやディスカッションの準備を行う。										
他の授業との関連	臨床実践看護学特論、臨床実践看護学演習										
成績評価方法・基準・フィードバック	研究の各過程(40%)、論理性・一貫性のある論文作成(30%)、討論の内容・技術(20%)、研究倫理(10%) 適時、個別にフィードバックを行う。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	※実務経験のある教員：森田(看護師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必須	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	●植原千明 (UEHARA Chiaki)										
授業の目的	公衆衛生看護領域における研究課題について、研究のプロセスに沿って修士論文を作成し、研究の基本的方法を学ぶ。修士論文作成の取り組みを通して、公衆衛生看護の実践に寄与できる基礎的能力を高める。										
到達目標	① 自己の研究課題について文献検討を重ね、学術的意義を導き出すことができる。 ② 研究課題に適した研究方法を用いて、研究を計画し、実施できる。 ③ 論旨が明確で一貫性のある修士論文を作成できる。 ④ 研究のプロセスを通して、倫理的態度を養うことができる。 ⑤ 効果的なプレゼンテーションを実施できる。										
授業の進め方	学生主体のプレゼンテーションをもとに、討議を重ねながら進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス									
	2~5	研究課題の明確化: 研究課題に関連する資料の分析や文献検討を行う。									
	6~10	研究計画書の作成: ゼミで発表を行い、教員や他院生の意見・助言を参考に内容の検討を行いながら作成する。									
	11~30	データ収集・分析: 研究計画書に基づき研究を進める。ゼミでの検討会や中間報告会での発表、評価、修正を行う。									
	30~50	論文の作成: 研究成果を修士論文にまとめる。									
	51~75	論文の完成: 研究成果の発表を行い、評価をもとに修士論文を完成させる。									
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	適宜、紹介する。										
事前学習・事後学習	研究課題に関連した文献や研究方法論に関する文献を読み、自己学習を積極的に進める。 研究の進捗状況を報告・発表できるように資料を準備する。										
他の授業との関連	公衆衛生看護学特論、公衆衛生看護学演習										
成績評価方法・基準・フィードバック	出席時間数が授業時間数の5分の4に満たないときは、原則として評価を受けることができない。 成績評価方法・基準: プレゼンテーション内容 (30%)、ディスカッションへの参加度 (20%)、論文の完成度と審査過程への取り組み (50%) を総合的に評価する。基準: 到達目標に照らし合わせて判断する。 フィードバック: 提出されたプレゼンテーション資料、計画書、論文等はその都度フィードバックを行う。最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。										
オフィスアワー	日時を調整し、随時対応する(要メール)。植原(研究室4 Mail:uehara@kagawa-puhs.ac.jp)										
備考	※実務経験のある教員: 植原(保健師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	●多田羅光美 (TATARA Terumi)										
授業の目的	メンタルヘルスに健康問題を持つ人ならびに家族、支援者である看護職のメンタルヘルスや看護職の継続教育に関連した研究課題を探索する。そして、精神保健医療福祉や看護職の働く場において寄与することができる知見を探索し、修士論文を作成することを通して基礎的研究能力を習得する。										
到達目標	① 研究課題を明確にし、文献レビューができる。 ② 対象者や研究方法について、適切かつ十分な倫理的配慮を行った研究計画書が作成できる。 ③ 研究計画書に沿ってデータを適切に収集し分析できる。 ④ 論理的で一貫性のある修士論文を作成することができる。 ⑤ 効果的なプレゼンテーション、ディスカッションのスキルを学び、研究成果が公表できる。										
授業の進め方	学生主体のプレゼンテーションを基に、討議を重ねながら進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1 2~5 6~15 16~35 36~55 56~75	ガイダンス 研究課題の明確化 研究計画書の作成 データ収集・分析 論文の作成 論文の作成研究成果の発表後、修正し、修士論文の作成・完成する									
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	テーマに関連した文献を事前に読みプレゼンテーション・討議の準備を主体的に行う。										
他の授業との関連	質的研究方法論、量的研究方法論、保健統計学特論、看護理論などの専門共通科目、および精神看護学特論、精神保健看護学演習の専門領域科目と関連する。										
成績評価方法・基準・フィードバック	授業での討議の内容(10%)、研究計画書の作成過程と内容(20%)、研究遂行能力(20%)、論理性・一貫性のある修士論文作成と成果(20%)、研究倫理(10%)、修士論文作成への取り組み姿勢(20%)を総合して評価する。大学で示された成績評価に基づいて評価する。フィードバックは、授業内で適宜行う。										
オフィスアワー	随時、対応します。前もって、tataratara@kagawa-puhs.ac.jpにメールでアポイントメントを取って研究室にお越しくださいとスムーズに対応できます。										
備考	* 実務経験のある教員：多田羅(看護師・助産師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	●竹内 千夏 (TAKEUCHI Chinatsu)										
授業の目的	老年看護学の対象である高齢者と家族およびそれらの人々にかかわる看護職に関連する研究課題を見出し、計画書プロセスに沿って研究を行い、得られた知見から修士論文を作成させる。これらのプロセスを通して、老年看護学に寄与できる基礎的研究能力を養う。										
到達目標	① 研究課題についての文献検討を行い、意義のある知見を導き出すことができる。 ② 研究課題に適した研究計画書を作成できる。 ③ 研究計画書に基づいてデータ収集ができる。 ④ 論旨が明確で一貫性のある修士論文を作成することができる。 ⑤ 研究プロセスを通して倫理的思考を養うことができる。										
授業の進め方	学生主体のプレゼンテーションに基づき討議を重ねながら進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス									
	2～4	研究課題の明確化(文献レビューや概念分析等の実施)									
	5～10	研究計画書の作成(教員や他院生へのプレゼンテーションを実施)									
	11～40	データ収集・分析(進捗状況に応じた指導・プレゼンテーションを実施)									
	41～68	修士論文作成									
	69～75	修士論文の発表・修正(研究成果の発表を行い、助言に基づき修正し完成させる)									
教科書	随時、紹介する。										
参考書・参考資料等	随時、紹介する。										
事前学習・事後学習	研究の進捗状況についてプレゼンテーション・討議できるように資料を準備する。 研究を遂行するために主体的学修を行う。										
他の授業との関連	老年看護学特論、老年看護学演習、看護研究方法論と関連する。										
成績評価方法・基準・フィードバック	成績評価方法: 研究遂行への取り組み姿勢(20%)、研究計画書の作成過程と内容(20%)、討論・プレゼンテーションの内容(30%)、研究成果(30%)を総合して評価する。 フィードバック: 論文作成過程では適宜フィードバックを行い、修士論文完成後の評価については期間を設けて説明する。										
オフィスアワー	随時、対応する。										
備考	* 実務経験のある教員 竹内(看護師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	●岡西 幸恵 (OKANISHI Sachie)										
授業の目的	がん看護学および療養支援看護学領域における知見や臨床疑問を基に導き出された研究課題について、研究のプロセスに沿って探求する。得られた知見をもとに修士論文を完成させ、がん看護学および療養支援看護学の発展に寄与できる基礎的研究能力を養う。										
到達目標	① 自己の研究課題を見出し、文献検討を通して学術的意義を説明できる。 ② 自己の研究課題に沿った研究計画書を作成できる。 ③ 研究計画に沿ってデータ収集・分析ができる。 ④ 論理的で一貫性のある修士論文を作成できる。 ⑤ 研究成果を発表、説明できる。 ⑥ 研究プロセスを通して、倫理的思考や姿勢を養うことができる。										
授業の進め方	学生主体のプレゼンテーションをもとに、討議を重ねながら進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス									
	2～5	研究課題の明確化									
	6～10	研究計画書の作成									
	11～40	データ収集および分析									
	41～68	論文作成									
	69～75	研究成果の発表および修正 修士論文の完成および提出									
教科書	随時、紹介する。										
参考書・参考資料等	随時、紹介する。										
事前学習・事後学習	事前に研究課題に関連した文献を読み、プレゼンテーション・討議の準備を行う。										
他の授業との関連	臨床実践看護学特論、臨床実践看護学演習										
成績評価方法・基準・フィードバック	成績評価方法：研究実施・論文執筆過程への取り組み(50%)、修士論文の完成度と審査過程への取り組み(50%)を総合的に評価する。 評価基準：到達目標に基づく。 フィードバック：その都度、個別にフィードバックを行う。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	※実務経験のある教員：岡西(看護師)										

看護学特別研究 (Research in Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	10.0	時間数	150	授業形態	演習
担当教員	新井 恵津子 (ARAI Etsuko)										
授業の目的	がん看護および慢性期看護領域における研究課題を基盤として、看護実践に寄与する研究を自立して遂行する能力を養う。										
到達目標	① 看護実践上の課題を、先行研究および理論的枠組みに基づいて研究課題として明確化できる。 ② 研究課題に対して、適切な研究目的・研究方法を選択し、研究計画を作成できる。 ③ 収集したデータを分析し、結果を看護学的視点から解釈・考察できる。 ④ 看護実践への示唆を明確にした研究成果を修士論文として作成することができる。 ⑤ 研究成果を公表できる。										
授業の進め方	学生主体のゼミナール形式										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～5	文献レビュー、研究課題の明確化									
	6～15	研究計画書の作成									
	16～35	データ収集・分析									
	36～55	修士論文の作成									
	56～75	修士論文の公表									
教科書	随時、紹介する。										
参考書・参考資料等	随時、紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習：研究段階に応じたプレゼンテーションの準備をする。 事後学習：ディスカッションを振り返り、次の課題を見出す。										
他の授業との関連	看護研究方法論と関連している。										
成績評価方法・基準・フィードバック	成績評価内容：研究遂行への取り組み姿勢(30%)、プレゼンテーション・ディスカッション内容 (30%)、研究成果・論文作成(40%)。 評価基準：到達目標に基づく。 フィードバック：ゼミナール時に適宜、行う。										
オフィスアワー	随時、対応する。										
備考	※実務経験のある教員：新井(看護師)										